

平成20年度
県内遺跡発掘調査概要報告書

- 野尻町・県営畑地帯総合整備事業（紙屋第2地区）〔松牟礼遺跡〕
- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業（江田山崎地区）
- 川南町・国営尾鈴農業水利事業〔前ノ田村遺跡〕
- 高千穂町・県営農地保全整備事業（河内西地区）〔丸山石棺群〕
- 日向市・県指定史跡「鈴鏡塚古墳」
- 西都市・県指定史跡「妻町清水・西原古墳」24号墳

2009.3

宮崎県教育委員会

平成20年度 県内遺跡発掘調査概要報告書

- 野尻町・県営畑地帯総合整備事業（紙屋第2地区） [松牟礼遺跡]
- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業（江田山崎地区）
- 川南町・国営尾鈴農業水利事業 [前ノ田村遺跡]
- 高千穂町・県営農地保全整備事業（河内西地区） [丸山石棺群]
- 日向市・県指定史跡「鈴鏡塚古墳」
- 西都市・県指定史跡「妻町清水・西原古墳」24号墳

2009.3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成20年度に国庫補助金を受けて実施した、県内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、文化財課主査 飯田博之・同 東憲章・同 日高広人が担当した。調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所・九州農政局尾鈴農業水利事業所・宮崎県中部農林振興局・同西諸県農林振興局・同北諸県農林振興局・同児湯農林振興局・同西臼杵支庁農政水産課・宮崎県療育庁財務福利課・関係市町村教育委員会及び同農政課等の協力を得た。
3. 本書の執筆は各調査者が行った。

目 次

1. はじめに	1
2. 県営畑地帯総合整備事業紙屋第2地区(松牟礼遺跡)	2
3. 県営経営体育成基盤整備事業江田山崎地区	7
4. 国営尾鈴農業水利事業(前ノ田村遺跡)	10
5. 県営農地保全整備事業河内西地区(丸山石棺群)	15
6. 県指定史跡「鈴鏡塚古墳」	20
7. 県指定史跡「妻町清水・西原古墳」24号墳	26

1.はじめに

宮崎県教育委員会文化財課では、各種開発事業に対する埋蔵文化財の保護を図るため、平成20年度及び21年度以降の事業対象地に係る試掘・確認調査を実施した。

また、活用策等を検討するために県指定古墳の範囲確認調査を実施した。

本報告は、平成20年度に実施した調査の内、6箇所調査の結果について概要を報告するものである。

No.	事業名	遺跡名・所在地	調査期間
1	国営尾鈴農業水利事業	前ノ田村遺跡・川南町	平成20年4月23日～25日
2	県営農地保全整備事業河内西地区	丸山石棺群・高千穂町	平成20年5月12日～14日
3	県営畑地帯総合整備事業前方2期地区	二本松遺跡・都城市	平成20年7月1日 平成20年8月8日
4	県営畑地帯総合整備事業紙屋第2地区	松牟礼遺跡・野尻町	平成20年7月11日
5	県営経営体育成基盤整備事業跡江2期地区	跡江地区遺跡群・宮崎市	平成20年9月8日～9日
6	国営西諸農業水利事業	愛染院遺跡・えびの市	平成28年9月11日
7	県営畑地帯総合整備事業尾鈴北第1地区	東平下遺跡・州南町	平成20年9月11日
8	高鍋農業高校酪農実習施設リニューアル事業	大戸ノ口第3遺跡・高鍋町	平成20年10月29日
9	県営経営体育成基盤整備事業江田山崎地区	宮崎市	平成20年11月4日～6日 平成21年3月5日～6日
10	畑地帯総合整備事業小林北部第1地区	平才原遺跡・小林市	平成21年2月9日～10日 平成21年3月16日
11	一般国道10号都城道路	平原第2遺跡・都城市	平成21年1月27日～30日
12	県営経営体育成基盤整備事業宇都地区	高原町	平成21年3月18日

表1 平成20年度開発事業に伴う試掘・確認調査一覧

No.	事業名	所在地	調査期間
1	県指定史跡「志和池村古墳」第1号墳	都城市下水流町2555-1	平成20年4月11日
2	県指定史跡「鈴鏡塚古墳」	日向市大字富高6800-40	平成20年6月12日～13日
3	県指定史跡「妻町清水・西原古墳」24号墳	西都市大字三宅8315-2	平成20年12月15日～ 平成21年1月13日(測量) 平成21年2月4日(探査)
4	県指定史跡「宮崎市下北方古墳群」13号墳	宮崎市下北方町	平成21年3月3日～4日(探査)

表2 県指定史跡確認調査一覧

2. 県営畑地帯総合整備事業紙屋第2地区 (松牟礼遺跡)

- 1 調査期間 平成20年7月11日
- 2 調査場所 野尻町大字紙屋※下図参照
- 3 対象面積 780m²
- 4 調査結果

県営畑地帯総合整備事業に伴う8号支線農道建設予定地に8本のトレンチを設定し、重機により掘り下げを行った。掘り下げの深さについては、工事計画の深度までとした。

建設予定地は、畑として利用されており、調査時は飼料作物の作付けが行われているところもあった。

重機による掘削後、人力によりトレンチ内の精査を行ったが、耕作用による掘削痕跡が見られた。1～5トレンチでは、アカホヤ火山灰層が検出されたが、その深さまでの掘り下げとなった。

6～8トレンチについては、アカホヤ層下の深さまで掘り下げるようになった。

結果、すべてのトレンチで遺構・遺物の検出はなく、施工に伴い発掘調査を実施する必要性はないことが確認できた。

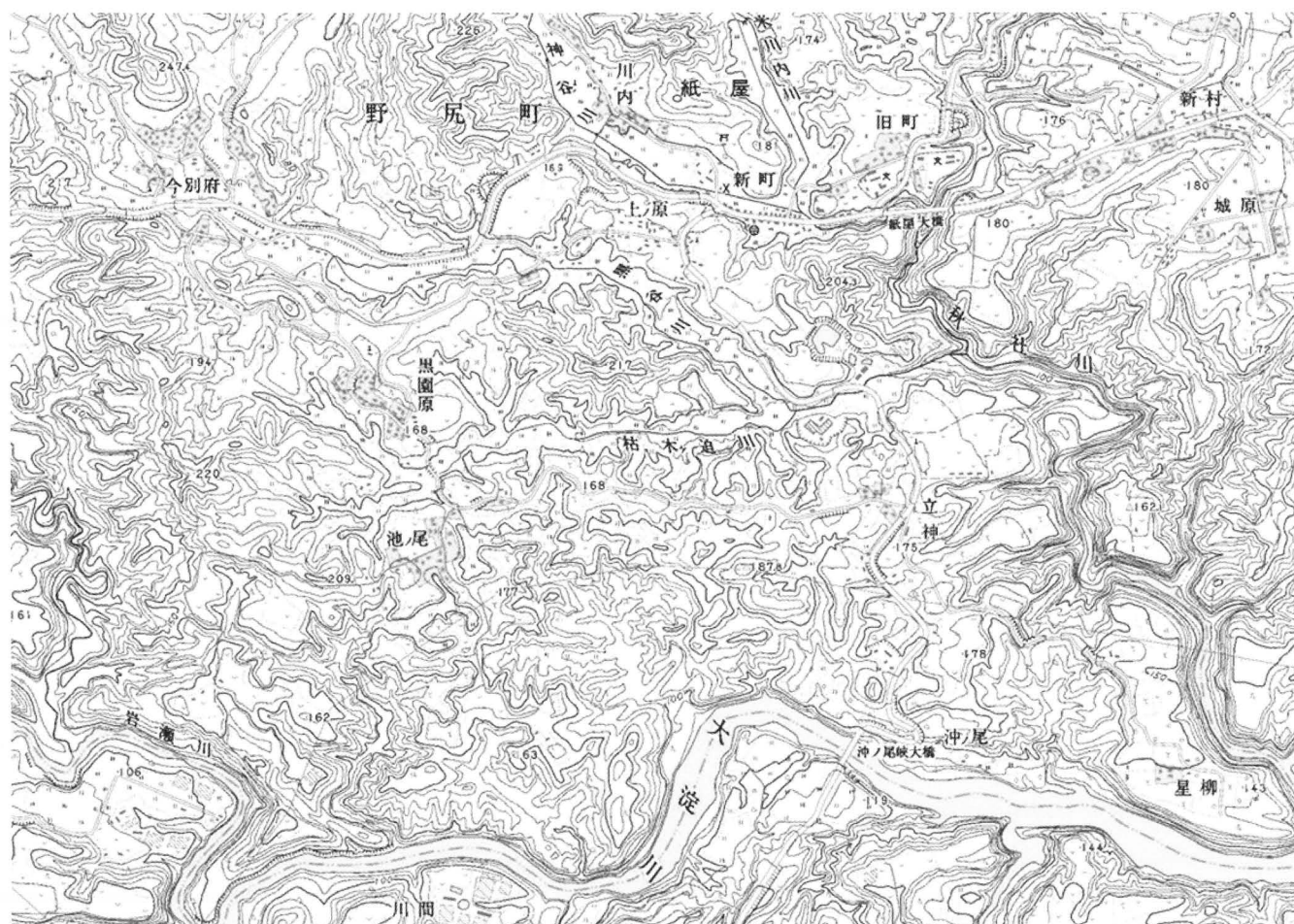


図1 調査地位置図

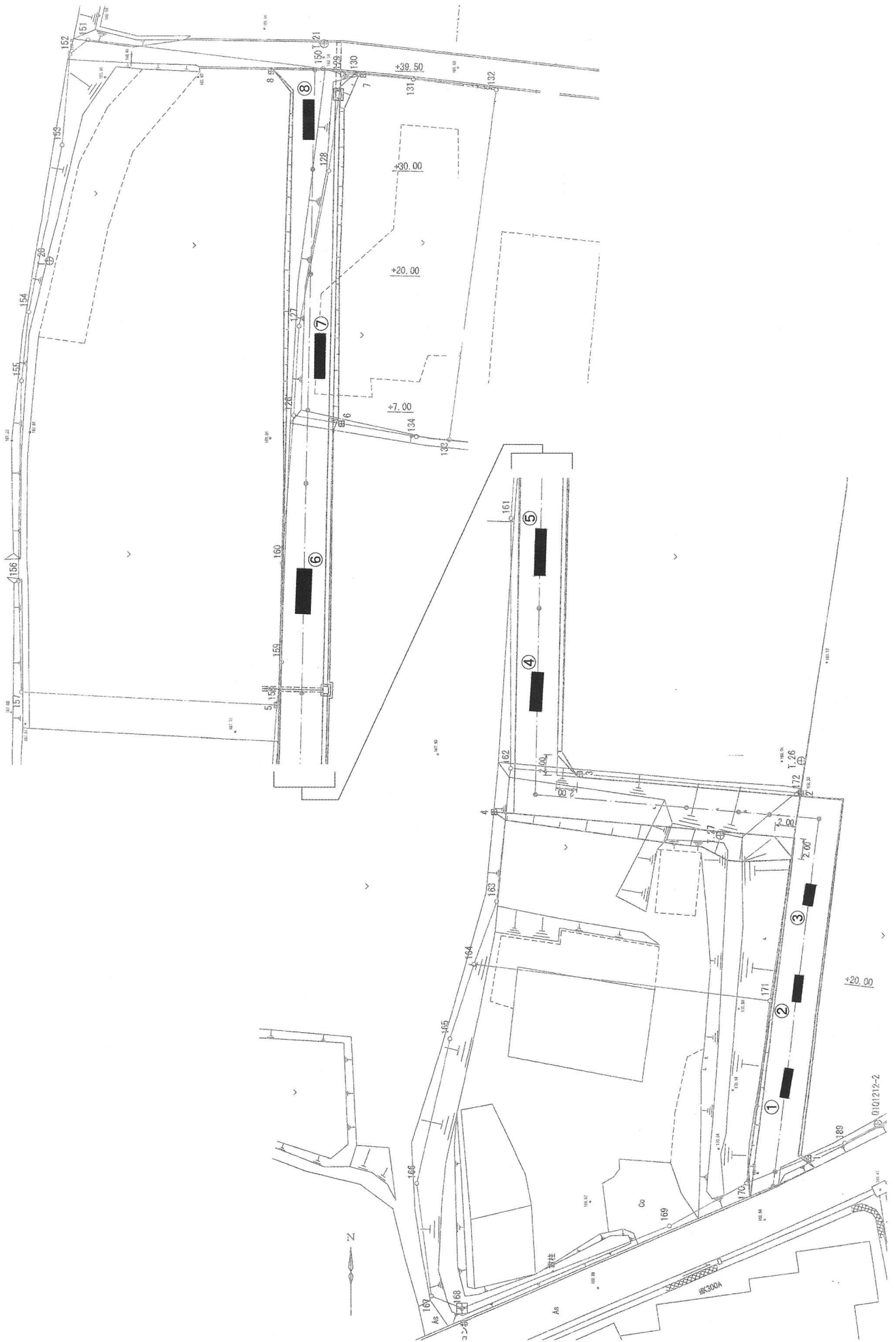


図2 トレンチ配置図

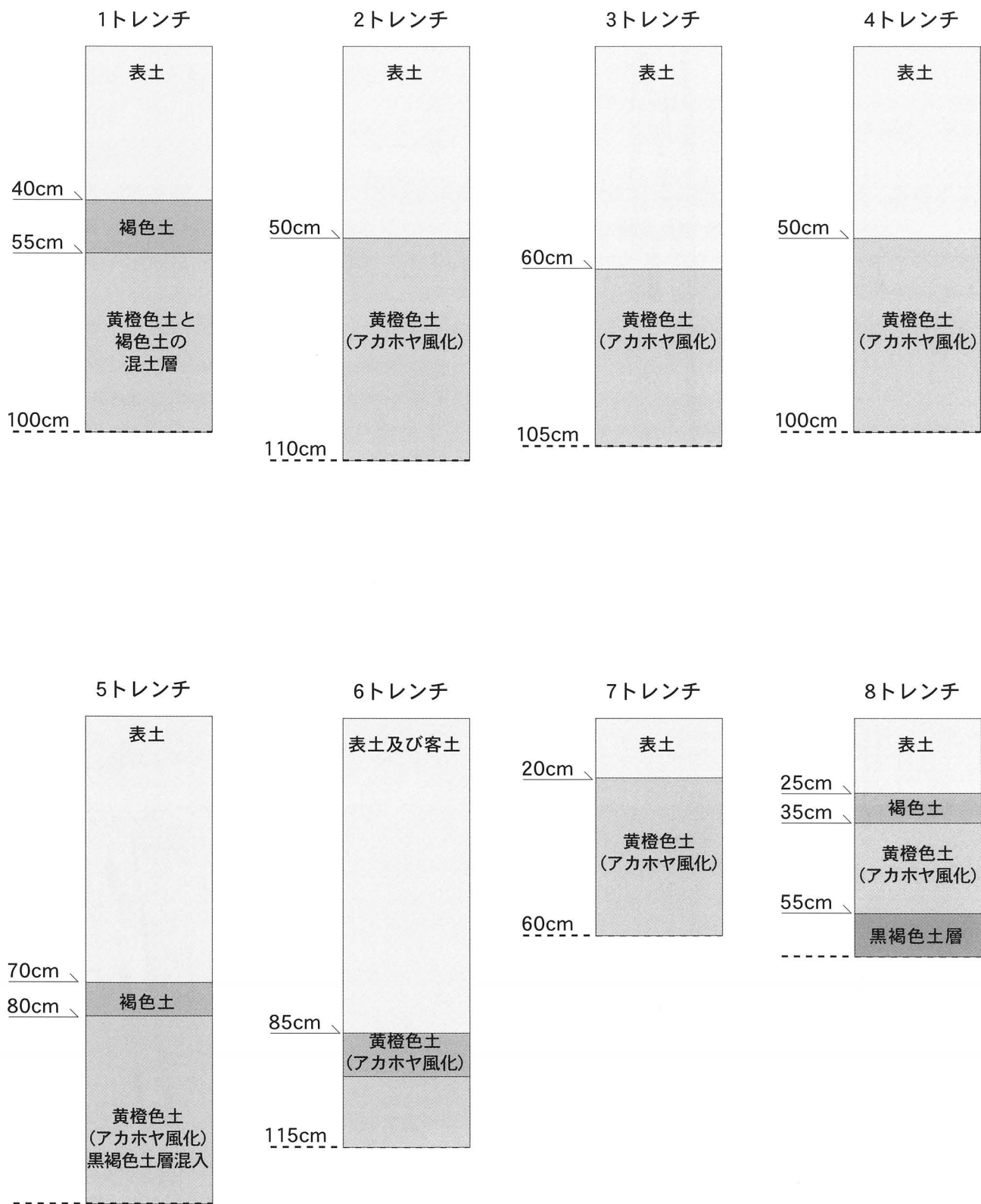


図3 土層柱状図



写真1 作業状況



写真2 1トレンチ



写真3 トレンチ精査状況



写真4 2トレンチ

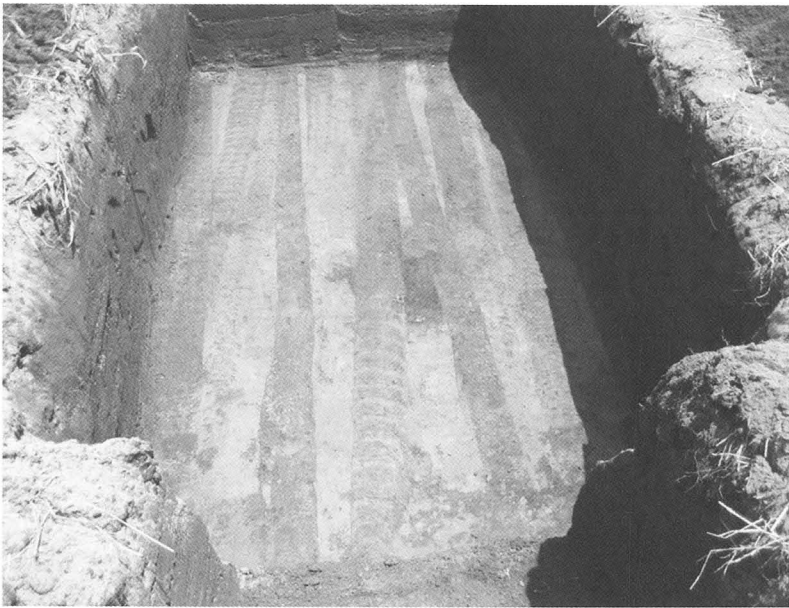


写真5 4トレンチ

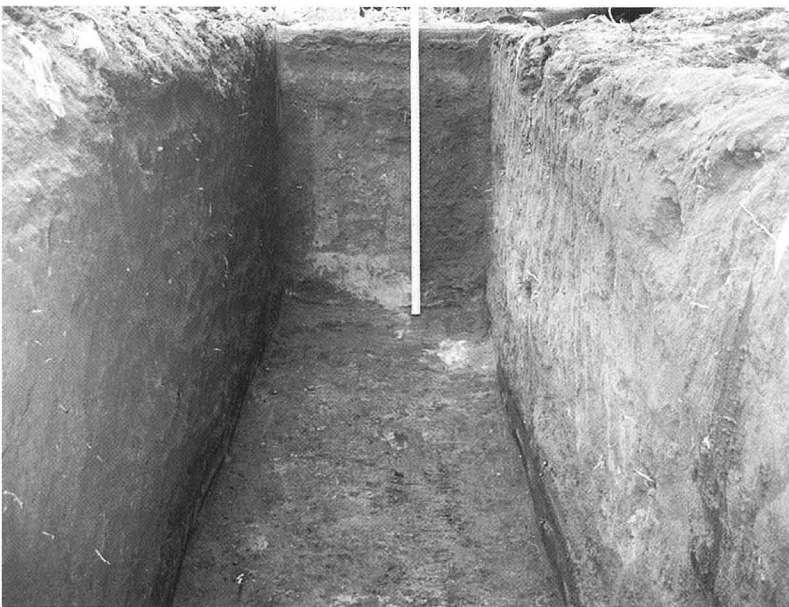


写真6 6トレンチ

3. 県営経営体育成基盤整備事業江田山崎地区

- 1 調査期間 平成20年11月4日～5日
- 2 調査場所 宮崎市阿波岐原町・山崎町
- 3 対象面積 1,000m²
- 4 調査結果

調査地は、宮崎市街地の東、海岸線に沿って並ぶ砂丘列のうち、第1砂丘と第2砂丘に挟まれた低地部に位置する。第2砂丘側からの緩斜面の一部には、周知の埋蔵文化財包蔵地である「先切遺跡」が存在している。

試掘調査は事業による切り盛り計画図にそって、現況から-20cm以上の切土予定範囲についてトレンチを設定した。(図5)

水田として利用されている低地部では、現耕作土(I層)下に、近現代の旧耕作土(II層)が確認された。その下層は、灰色粘土(III層)が厚く堆積している。この粘土層は、砂層を母材として耕作の連続によって形成されたものと考えられ、砂丘が離水した弥生時代以降の水田層が含まれる可能性も考えられるが、明瞭な洪水砂なども見られず、平面的に時期を確定させることは困難であると思われた。

調査範囲のほぼ中央に見られた微高地部は、畑として利用されている。この範囲では、試掘により多くの弥生土器(中期後半～後期初頭頃)が確認された。遺構としては、土坑、溝などが検出されたが、集落あるいは埋葬遺構が分布する可能性が高い。

周知の埋蔵文化財包蔵地である先切遺跡周辺は、近年の耕作放棄により雑草の繁茂が著しく、試掘調査が行えなかった。しかし、その周囲の水田面では、耕作土中に多数の土器小片が見られ、同遺跡からの流れ込みと推測された。

今回の試掘調査の結果、事業予定地中央部の微高地部分については、本調査が必要と判断された。先切遺跡においても、遺構遺物の残存する可能性が高く、再度の試掘調査を必要とするが、本調査の対象となる可能性が高い。



図4 調査地位置図

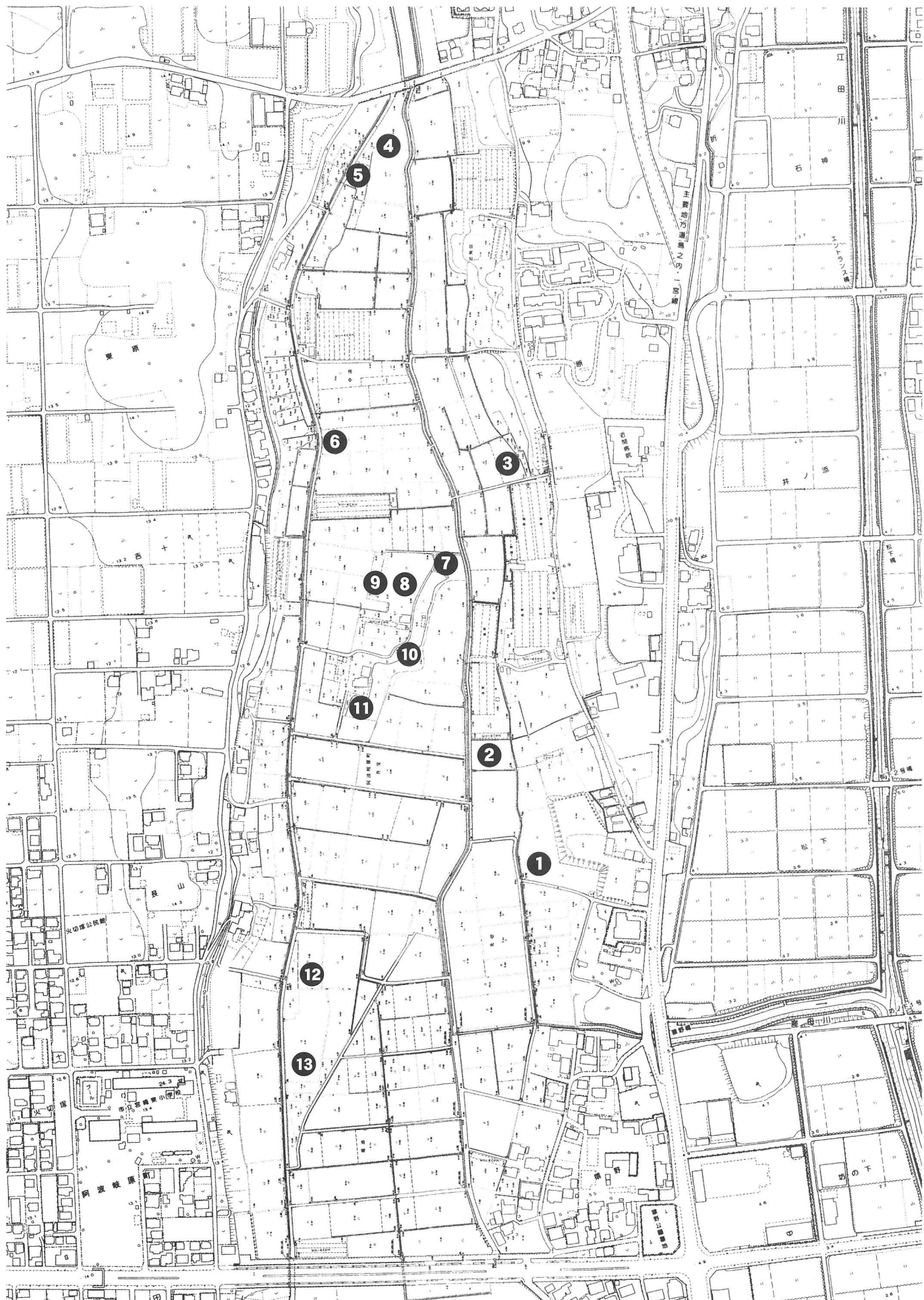


図5 試掘トレンチ配置図



写真7 トレンチ1 低地部の標準層序



写真8 トレンチ6 低地部

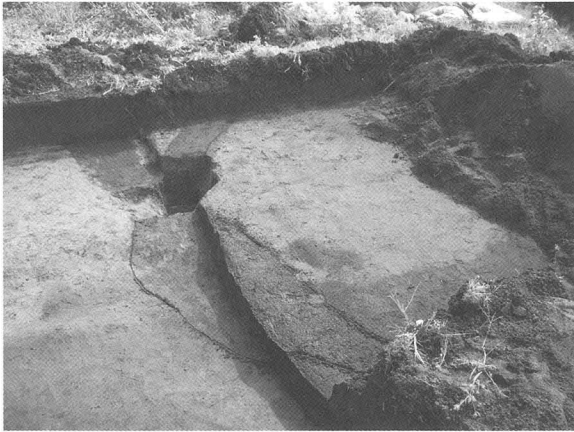


写真9 トレンチ7 微高地 溝状遺構



写真10 トレンチ11 微高地



写真11 トレンチ8 微高地

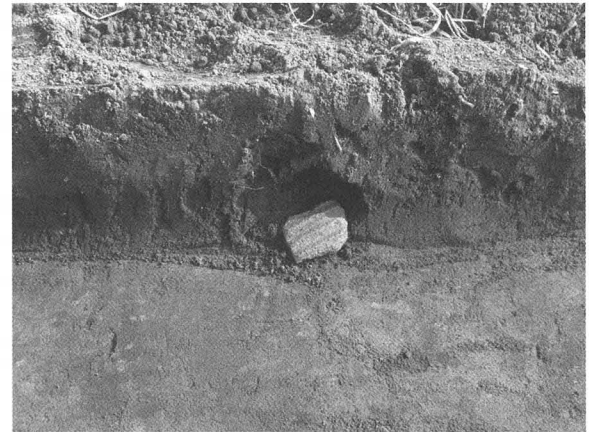


写真12 トレンチ8 出土弥生土器



写真13 トレンチ10 微高地



写真14 トレンチ10 出土弥生土器

4. 国営尾鈴農業水利事業(前ノ田村遺跡)

- 1 調査期間 平成20年4月23日(水)～4月25日(金)
- 2 調査場所 児湯郡川南町大字川南字西国光原25406-20他
- 3 対象面積 約612m²(試掘調査面積 約24m²)
- 4 調査結果

九州農政局尾鈴農業水利事業所が計画中の西光原調圧水槽及びパイプライン建設予定地は川南町中央部を東流する綿打川(平田川支流)の南側に形成されている標高約102mの丘陵地に位置する。丘陵の北側及び西側は急崖を呈し、東側は緩やかに傾斜しながら国光原台地へと連なる。また丘陵頂部には町の水道施設である第5配水池が立地し、その横に同調圧水槽等を建設予定にしている。予定地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」である前ノ田村遺跡の隣接地で、地形的にも遺跡が立地する可能性が高いため、試掘調査を実施した。

周辺では東九州自動車道(都農～西都間)建設事業に伴い、弥生時代後期～終末の円形周溝墓や周溝状遺構、竪穴住居跡が確認された赤坂遺跡や弥生時代後期の周溝状遺構や竪穴住居跡、縄文時代早期の集石遺構や炉穴が確認されている国光原遺跡、弥生時代後期竪穴住居跡内から炭化鋤が出土した湯牟田遺跡等が立地している。

試掘調査は、トレンチを西光原調圧水槽建設予定地(丘陵頂部)3箇所、パイプライン埋設予定地(丘陵南緩斜面)4箇所の計7箇所に設定し、人力による掘り下げを行った。

各トレンチ(以下、T)とも比較的層の残りが良く、T1～T3、T7ではアカホヤ火山灰層(Ⅲ層)上の黒色土(Ⅱ層)が確認できる。また鍵層としてアカホヤ火山灰のほか始良Tn火山灰も認められる。

調査の結果、アカホヤ火山灰層を挟み、縄文時代早期・弥生時代の2時期の文化層を確認した。縄文時代早期では、T4南西端で円形もしくは楕円形の平面プランを呈すると考えられる土坑1基を検出した他、遺物ではT4やT5でⅣ層(黒色土)からⅤ層(暗褐色土)の層境付近で貝殻条痕文土器や剥片、焼礫等が出土する等、丘陵南緩斜面に分布が認められる。

これに対して弥生時代では、T1やT3のⅡ層で弥生土器や剥片等が、T5ではⅣ層検出の黒色土埋土(Ⅱ層起因)を有する柱穴?内から弥生土器の底部片が出土している他、T2やT6の表土中からも土器等が確認されていることから丘陵頂部から南緩斜面にかけて分布が広がる。

なお、T4のⅥ層上部出土の石核が旧石器の所産の可能性もある他、時期不明の遺構として、T2のⅢ層上面では径1.4m、深さ50cm(掘り込み面から70cm)の土坑1基を確認した。

以上のことから、これらの時期の遺構や遺物が未調査範囲及びその周辺でも確認される可能性が高く、事前の発掘調査(本調査)が必要である。また当該地は隣接する前ノ田村遺跡と同一丘陵で、所属時期も同じであることから同遺跡が拡大するものと考えられる。

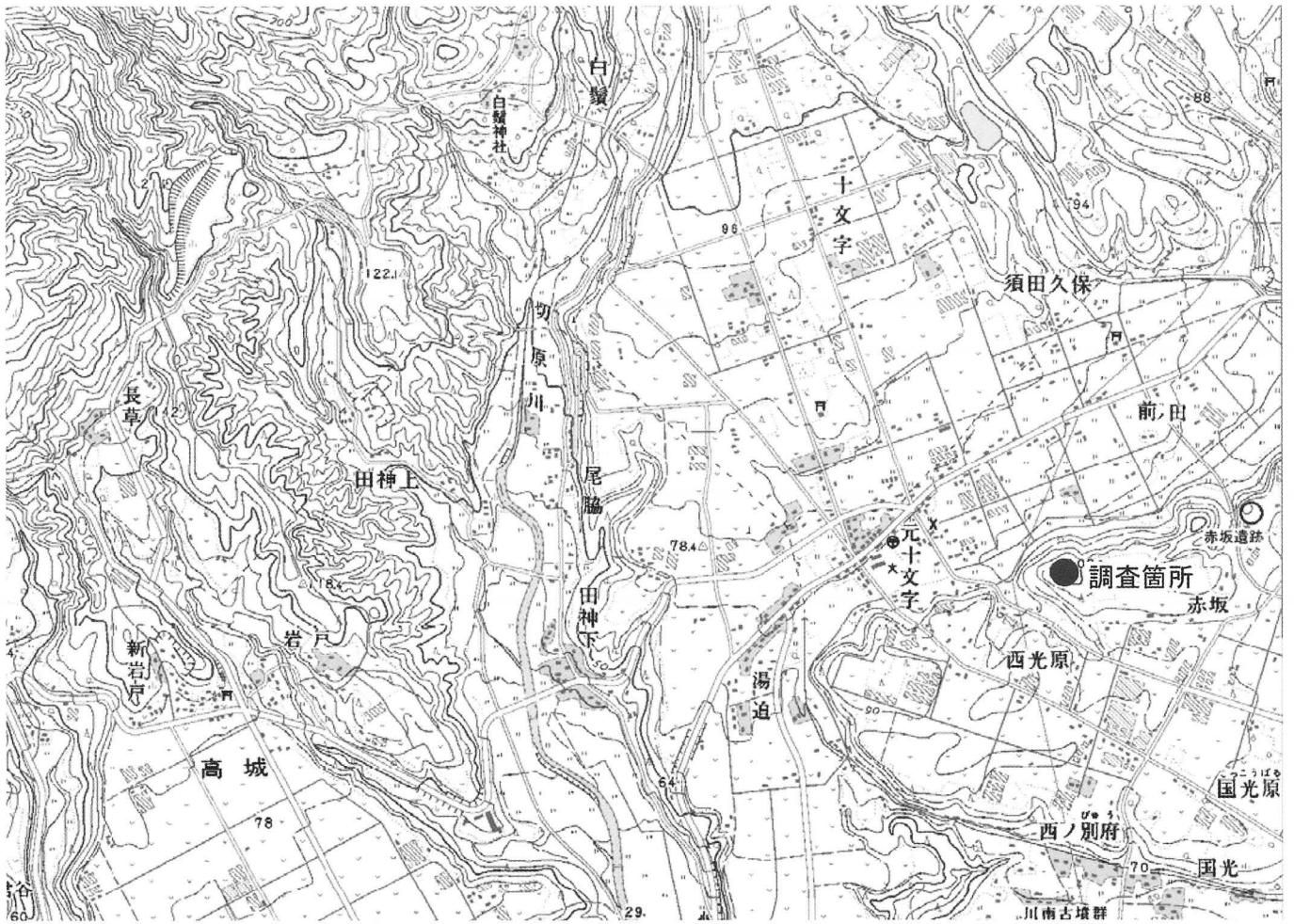


図6 試堀調査位置図 (S=1/25,000)

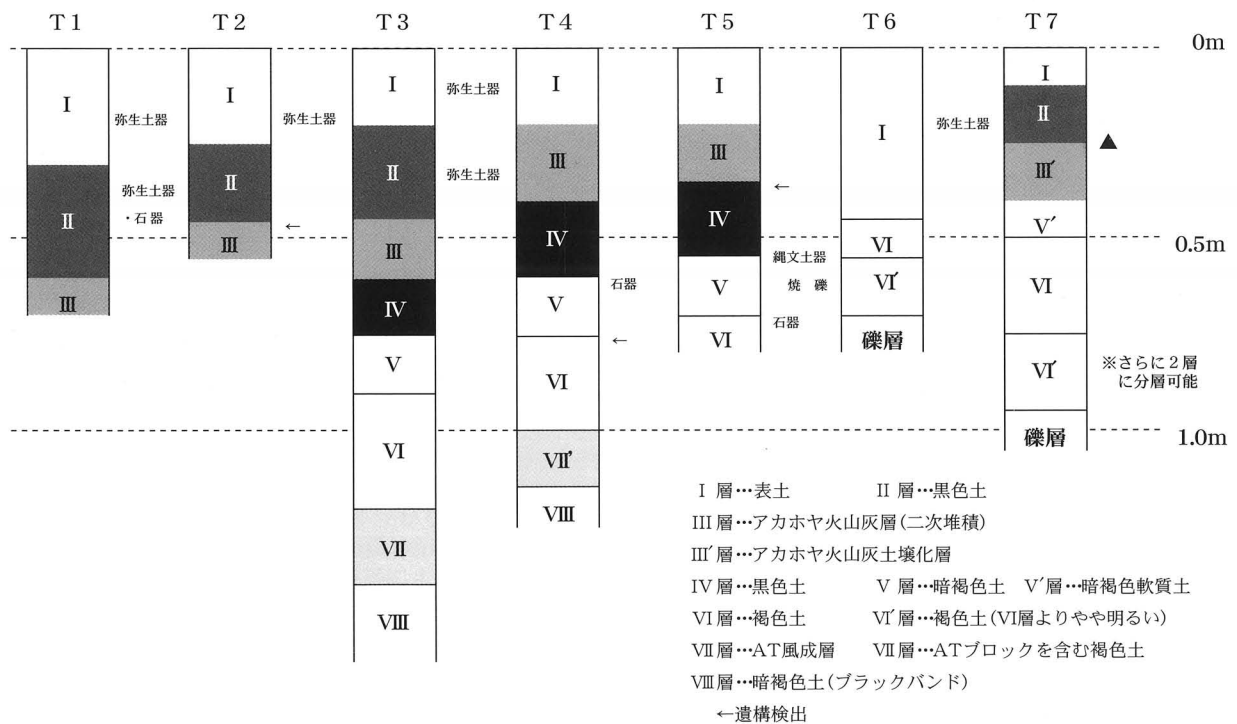


図7 各トレンチの土層図 (S=1/20)

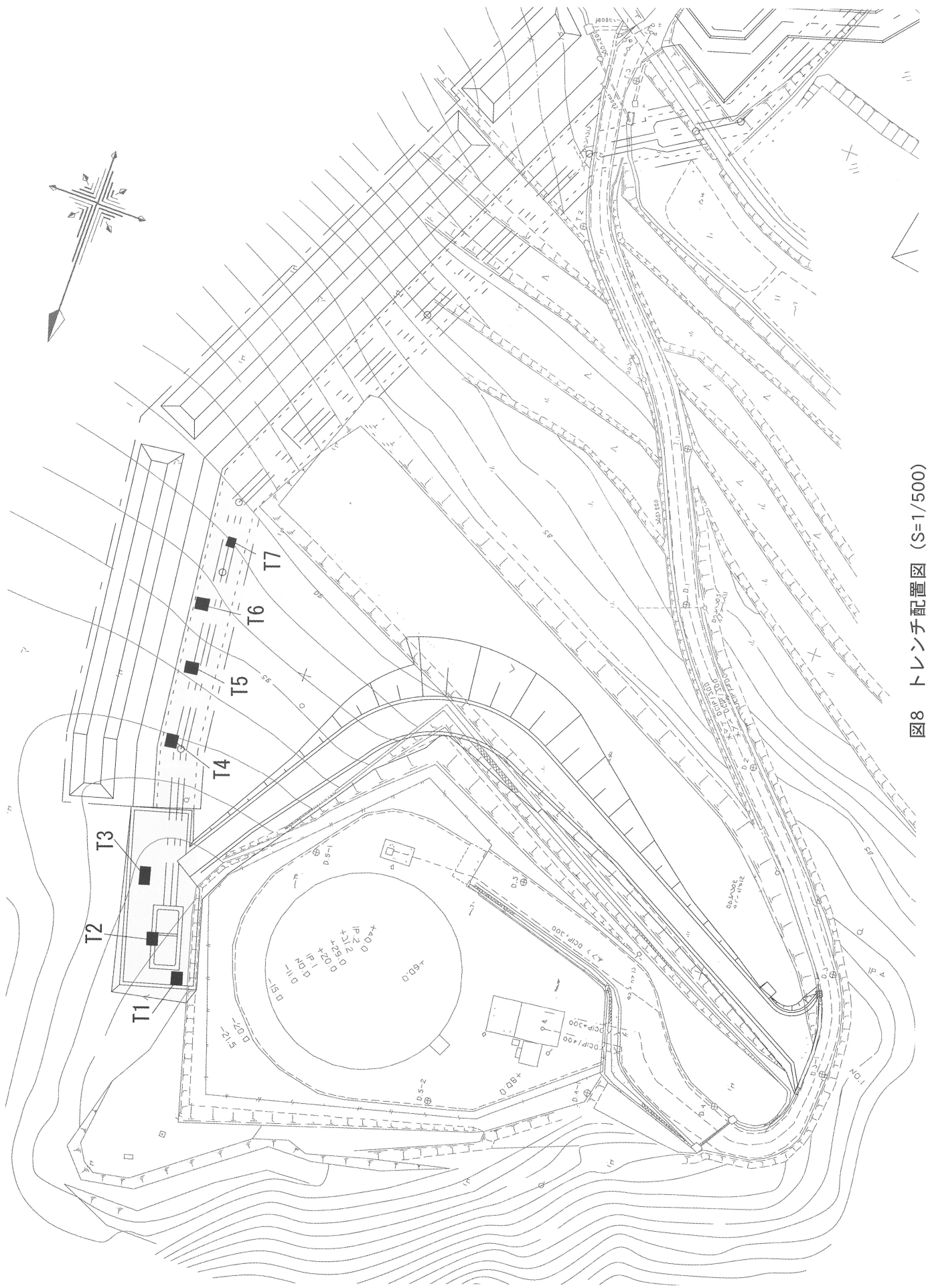


図8 トレンチ配置図 (S=1/500)



写真15 調圧水槽建設予定地近景
(南より)



写真16 調査の様子(東より)



写真17 T2(北より、黒色部が土坑)



写真18 T4(北東より、黒色部分は
縄文時代早期の土坑)



写真19 T6礫層検出状況(西より)

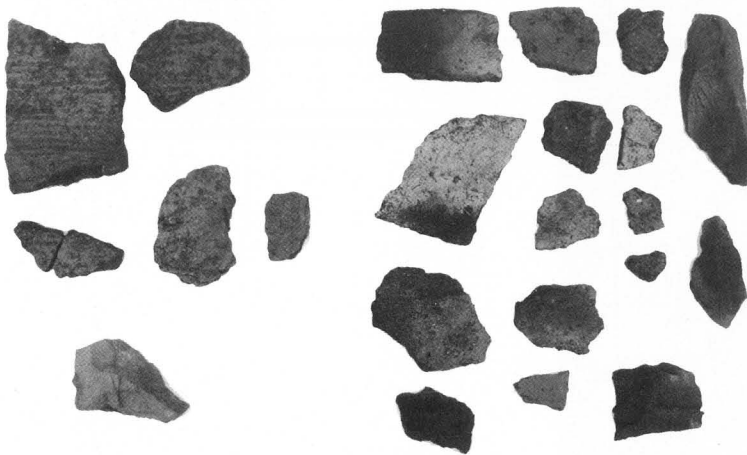


写真20 出土遺物

5. 県営農地保全整備事業河内西地区（丸山石棺群）

- 1 調査期間 平成20年5月12日(月)～5月14日(水)
- 2 調査場所 西白杵郡高千穂町大字河内字丸山735、745-1
- 3 対象面積 590m²
- 4 調査結果

調査地は、五ヶ瀬川上流の熊本県との県境に接する標高600m前後の緩やかな丘陵に位置し、これまでに県指定「田原村古墳5号」(円墳・横穴墓3基)や周知の埋蔵文化財包蔵地「丸山石棺群」(箱式石棺13基)が確認されている。

特に南に面した緩斜面(指定地番内)については、確認されている3基の横穴墓以外にも、未開口の横穴墓が検出される可能性が高いと考えられた。横穴墓は遺構の性格上、内部が空洞になっており、仮に掘削による調査の場合、開口して外気に触れると劣化が進行し、最悪の場合、崩落する危険性も考えられることから、「非破壊」による調査が有効と考え、地中レーダー探査を実施した。

調査は路線中央(図10右側◎-◎)を基準に1mごとにメジャーテープを張り、東西に3m・計6m幅(北東端を0m、0mに設定)×南北50mのグリッドを設定、50cmピッチで270MHzアンテナを南北方向に走査した。さらに6m下では幅を東に6m、西に5m拡張し、南北1mごとに、34mのラインまでメジャーテープを張り、同じく50cmピッチで500MHzアンテナを東西方向に走査させた。

調査の結果、中央部で2箇所強い反応があり、そのうち上側のものについては、通常空洞反応と異なるものの、規模等から横穴墓の天井が崩落した可能性が考えられる。また下側のものについては南北方向を走るように反応があったことから、溝状遺構もしくは横穴墓に伴う墓道等の可能性が考えられる(図10～図13)。

以上のことから、当該地には横穴墓が存在し、その一部が予定路線に掛かることから、反応のない東側に路線を変更する必要がある。また溝状遺構もしくは墓道等については工事の際に立会が必要である。

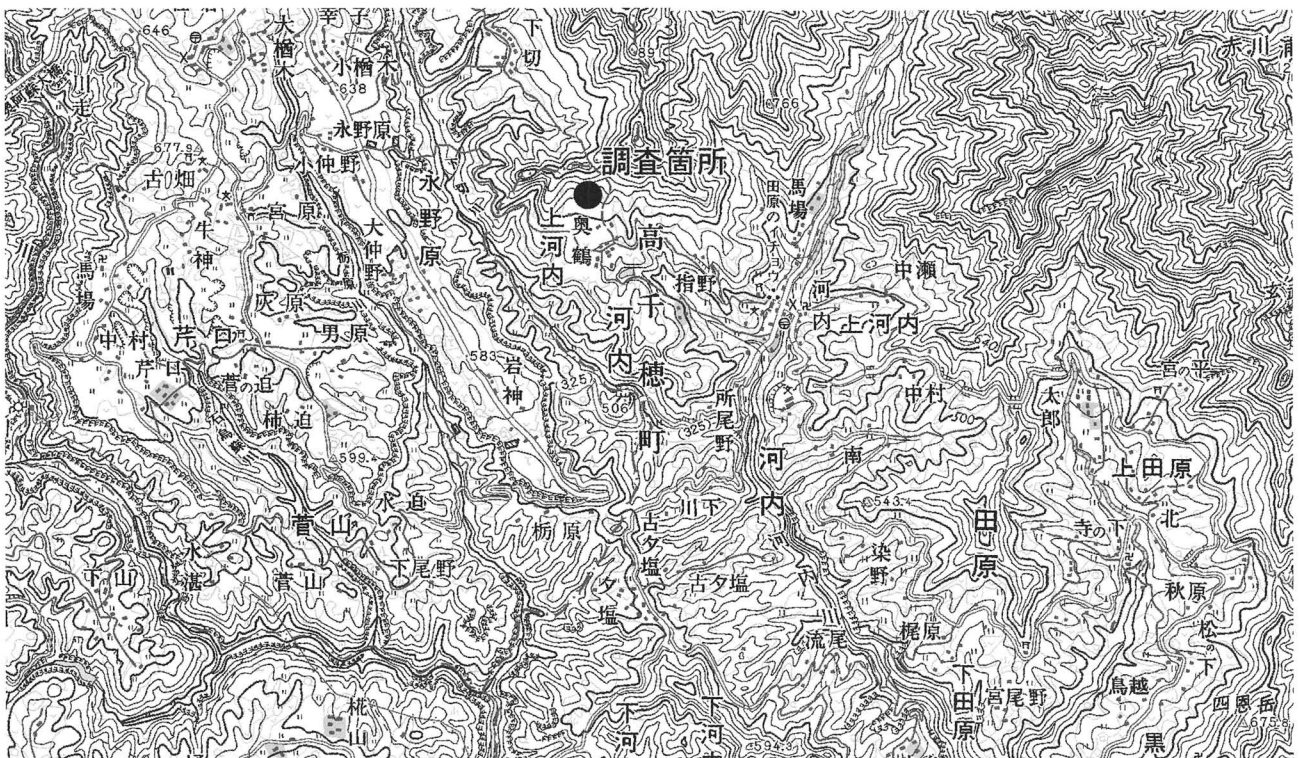


図9 確認調査箇所 (S=1/50,000)

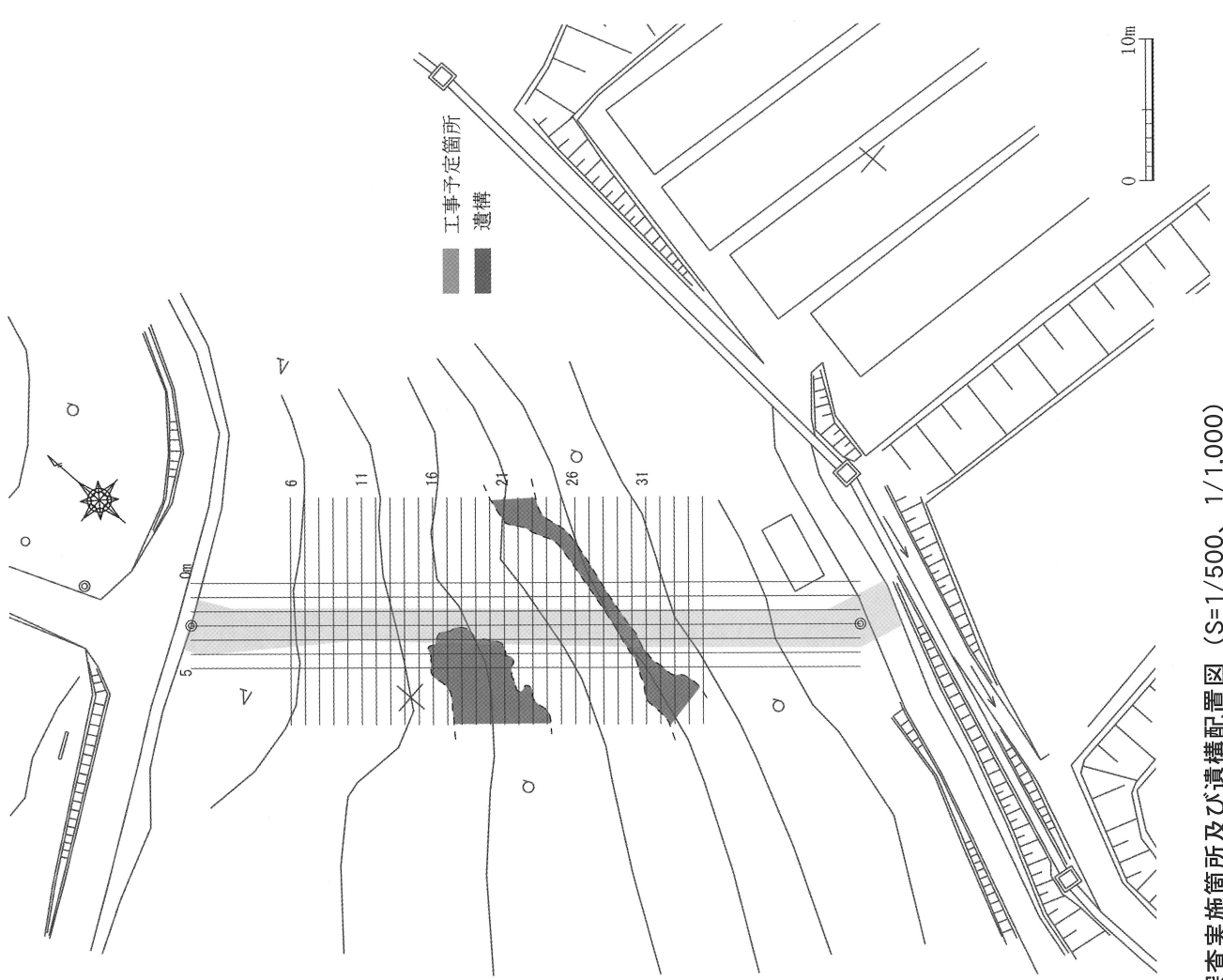
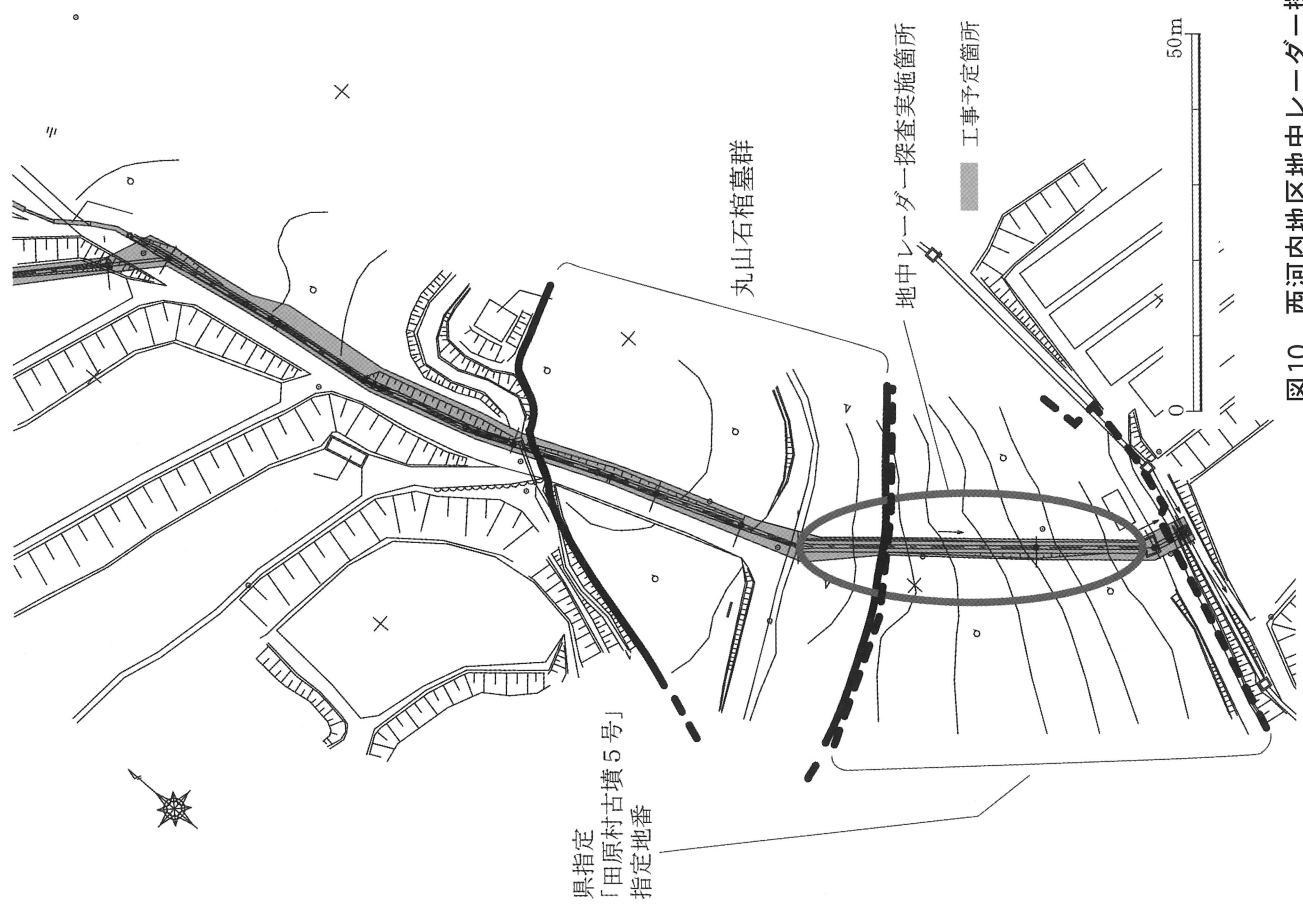


図10 西河内地区地中レーダー探査実施箇所及び遺構配置図 (S=1/500、1/1,000)

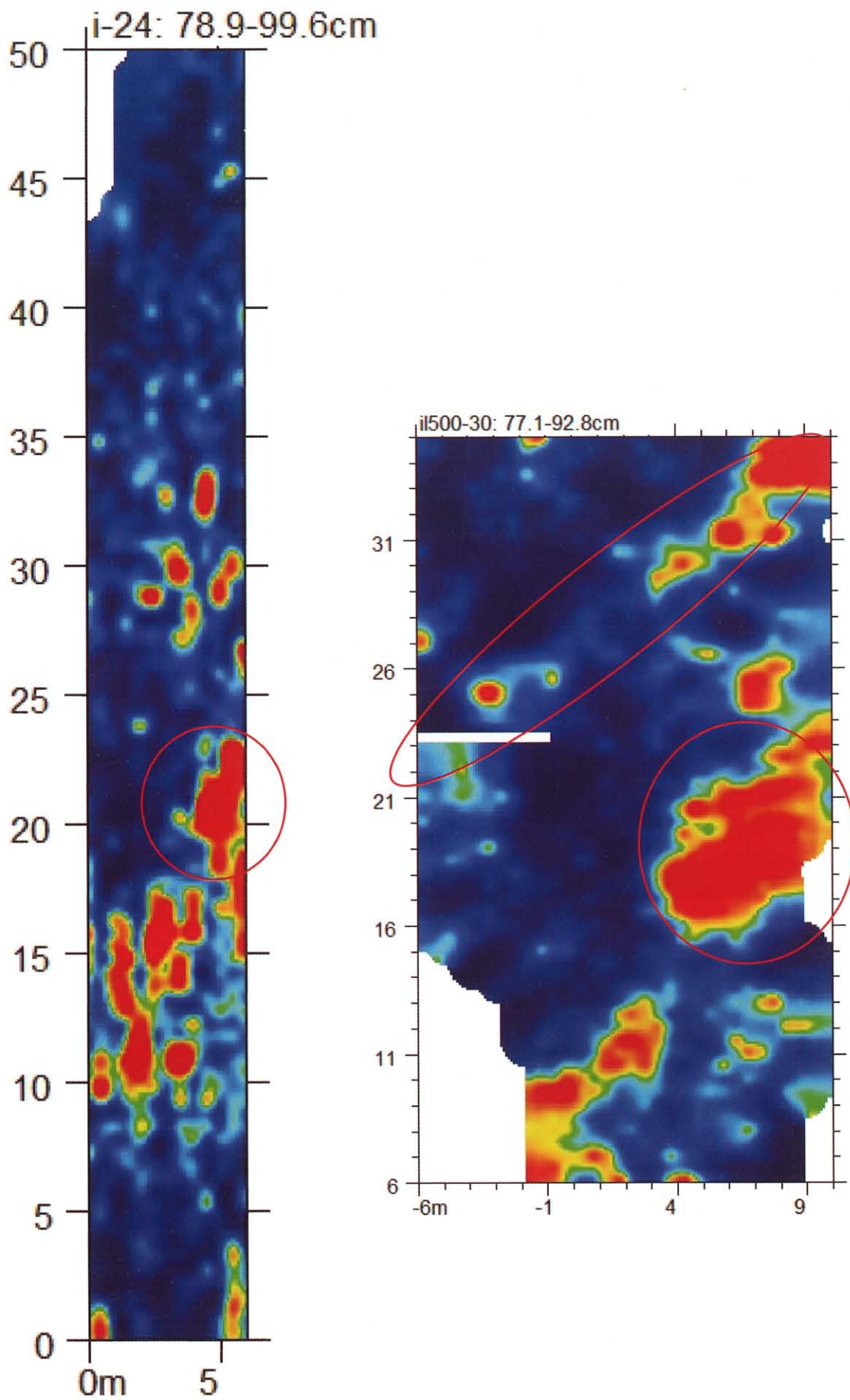
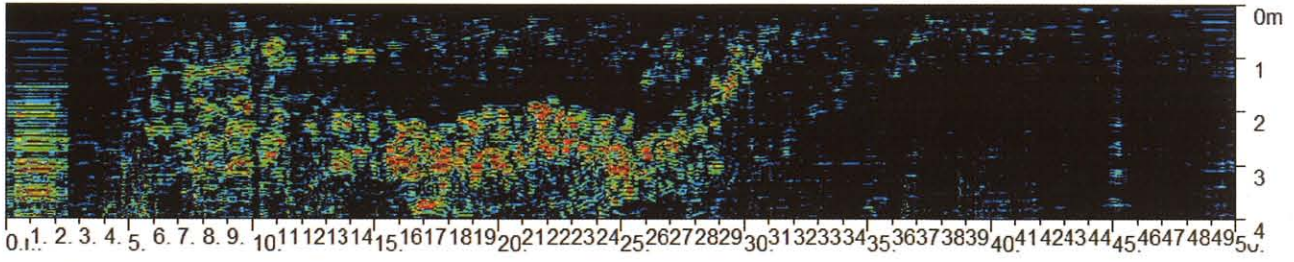
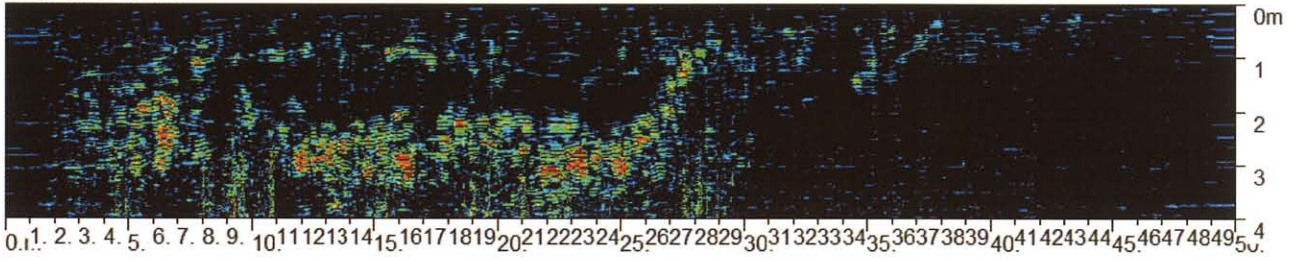


図11 西河内地区地中レーダー探査結果(平面図、左が270MHZ 右が500MHZ)

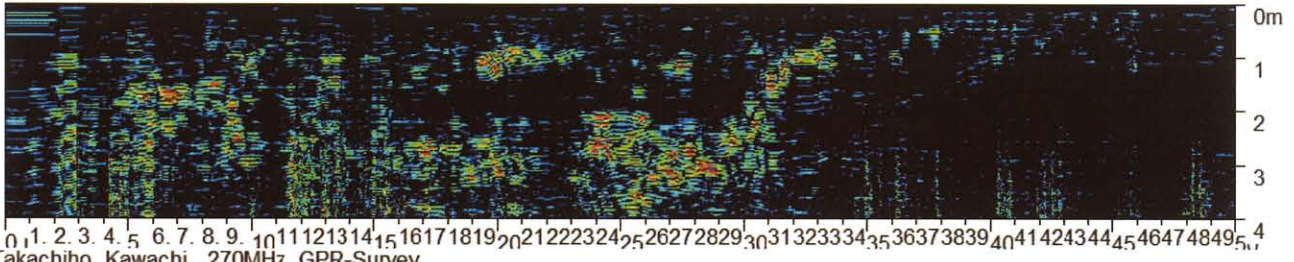
\work\file8 x=3.5m



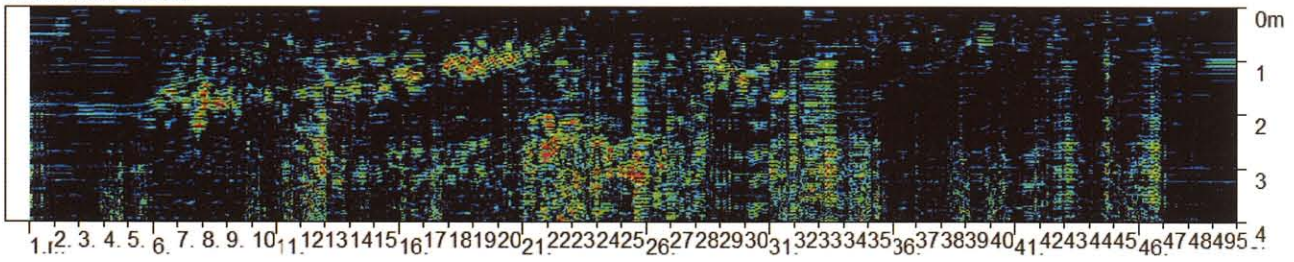
\work\file9 x=4.m



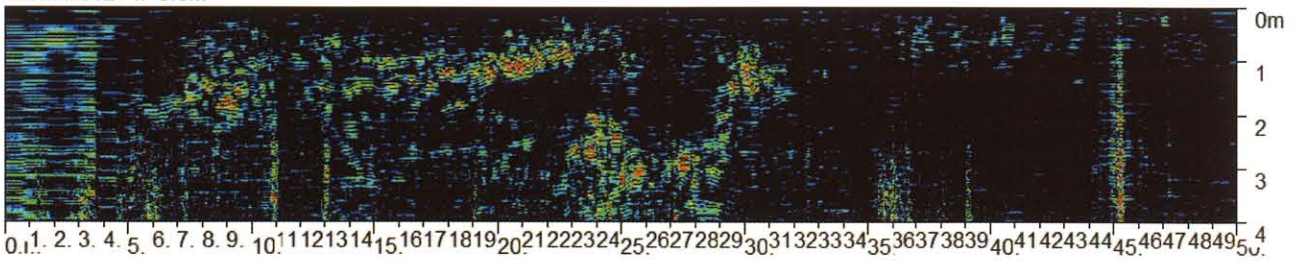
\work\file10 x=4.5m



\work\file11 x=5.m



\work\file12 x=5.5m



\work\file13 x=6.m

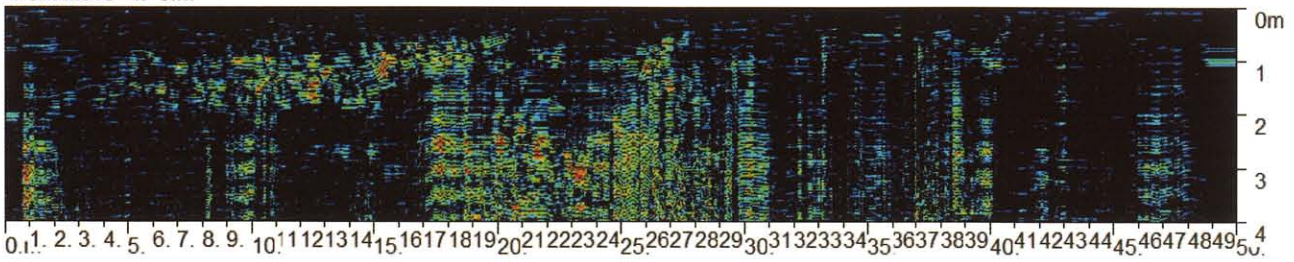
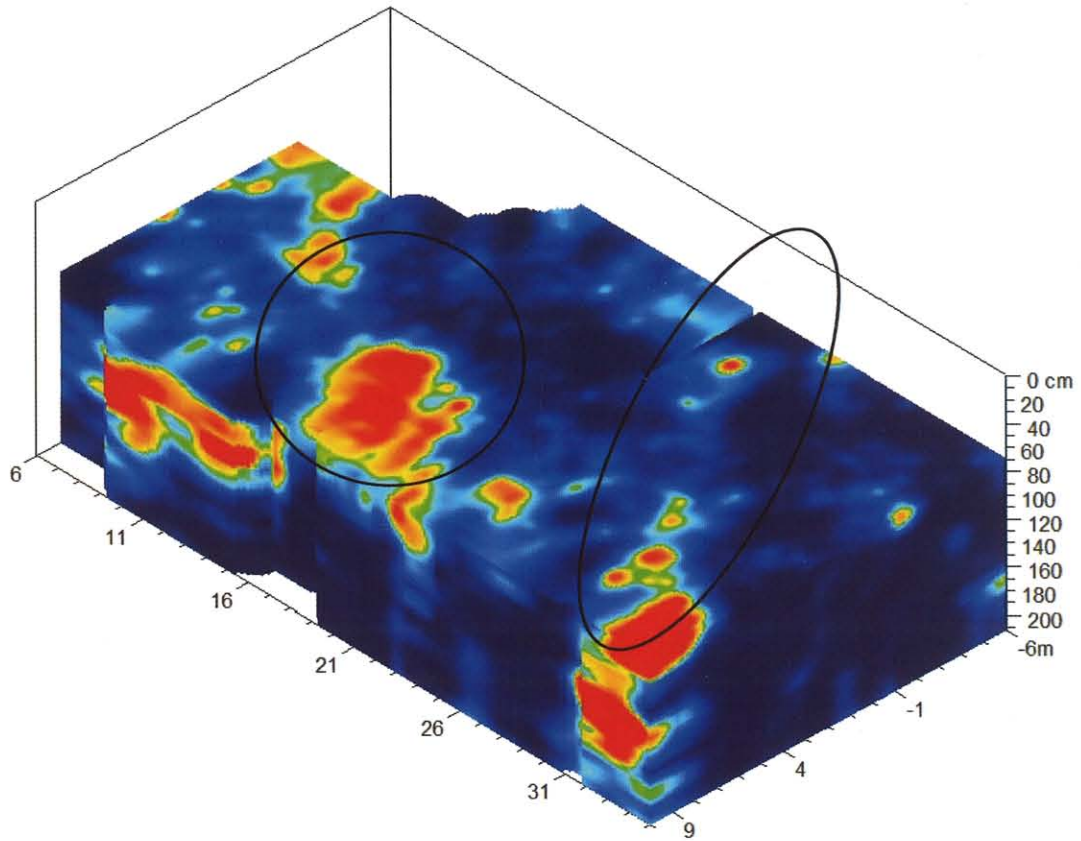


図12 西河内地区地中レーダー探査断面図

71.7cm



Render
isosurface= 245
rotation= 120
phi= 65
level=0.cm

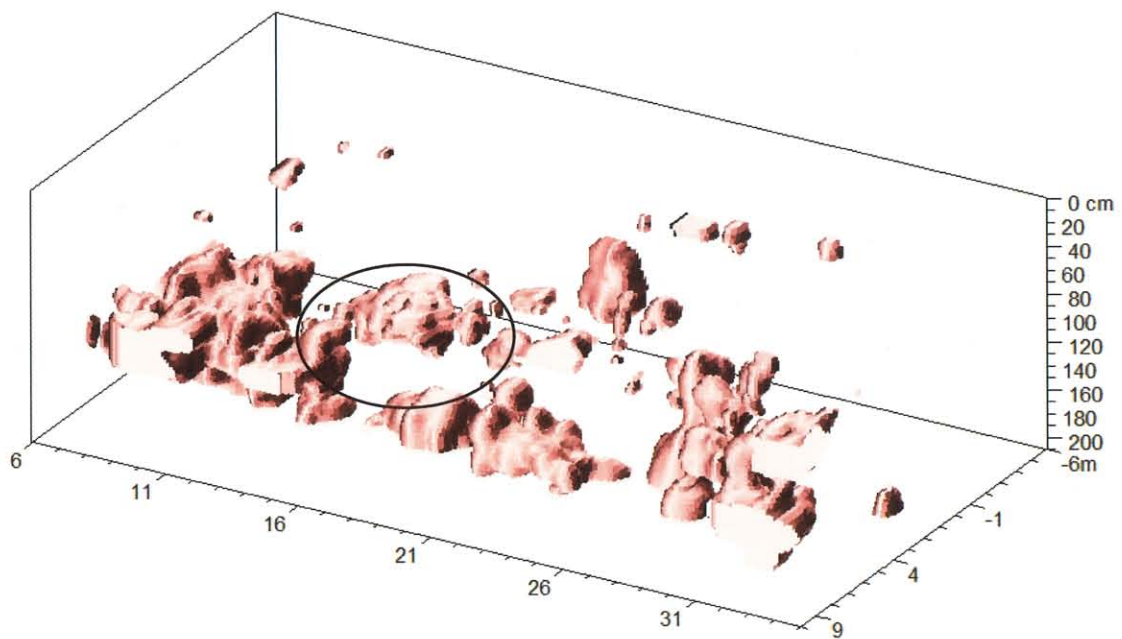


図13 西河内地区地中レーダー探査 3Dタイムスライス

6. 県指定史跡「鈴鏡塚古墳」

- 1 調査期間 平成20年6月12日(木)～6月13日(金)
- 2 調査場所 日向市大字富高6800-40
- 3 対象面積 約2m²
- 4 調査結果

鈴鏡塚古墳は、日向市市街地を東流する塩見川の北側に形成されている標高約26mの丘陵地に位置する。同古墳の南東約200m先の丘陵先端部には県指定史跡の富高1号墳(円墳)及び2号墳(前方後円墳)があり、そのうち1号墳の墳頂部上には若宮神社が建立されており、通称「若宮古墳」とも呼ばれている。

同古墳では、これまでに昭和28年の県教育委員会が実施した調査(日向遺跡調査)や平成10年の日向市教育委員会による県指定申請に伴う範囲確認調査が行われている。そのうち昭和28年の調査では粘土槨内から、獣文八鈴鏡や鉄刀、鉄鏃、斧頭、玉類が出土している。また平成10年の調査では、墳端に7カ所のトレンチを設定し、幅0.5～1m、深さ0.1～0.2mの凹みを確認し、それらが墳丘を巡ることから周溝の可能性を指摘している。

平成20年3月に地権者から古墳本体を日向市に寄贈、残りを宅地として売却予定で考えているが、墳丘南西部に接する盛土(平成に入って周辺の開発時に生じた排土が放置されている。)があり、その部分の古墳範囲が不明であることから、範囲をはっきりさせて欲しいという要望があった。このため、今回の調査では、同範囲確認と周辺に古墳もしくは古墳に伴う遺構等が存在するかの確認を行った(トレンチ1～3)。

調査の結果、トレンチ1・2では表土下(I層)に造成土(II層:層厚0.65～1.4m)、その下位に旧表土(III層:層厚0.15～0.35m)、褐色土(IV層:縄文時代早期の包含層)が確認でき、そのうちトレンチ1ではIV層中で焼石が出土し、トレンチ2ではIV層上面で遺構と思われる落ち込みが確認されている。

墳丘に接する盛土部分に設定したトレンチ3南側では、他のトレンチ同様の層序を成し、IV層上面で集石遺構が1基確認されている。その集石遺構から北東約1m先からIII層が上方に傾斜し、現況の規模(直径約17.5m)よりも大きくなる可能性がでてきた。

そのためトレンチの一部をさらに掘り下げを行った結果、傾斜が始まる部分についてはIII層が入り溝状を呈すが、その北東側には黒色土(a層)が認められ、その下位に黒褐色土(b層)、掘り下げ部分の北東側端にはアカホヤ火山灰をブロック状に含む黒色土(c層)、その下位に黒色土(d層)、IV層と続く。

また集石遺構確認部分と墳丘埋土下のIV層の高さが異なり、集石遺構の方が高くなって段がつくことから、明かにIV層を人為的に下げており、a～d層については墳丘埋土と考えられ、a層とIV層が接する部分から南側が周溝になる可能性がある。

以上のことから、墳丘の規模が現況の規模(直径約17.5m)よりもさらに拡大するものと考えられる。昭和28年調査の墳丘測量図をみると、墳丘の直径が約20mの円形を呈することや今回の調査で造成土が層厚0.65～1.4mと入ることを確認しているから、周囲が埋められて規模が小さくなっていることが想定される。しかし、平成10年の調査結果と比較すると規模に違いが認められることから、造成時に削平を受けて卵状に残存する可能性もあり、さらに検討する必要がある。

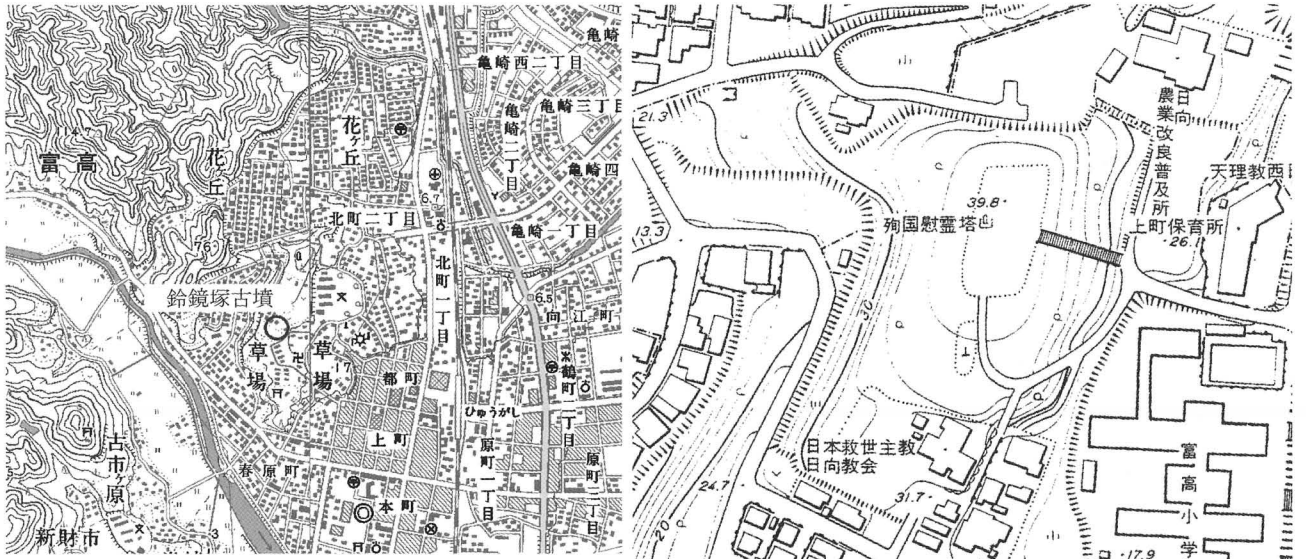


図14 鈴鏡塚古墳位置図 (S=1/25,000)

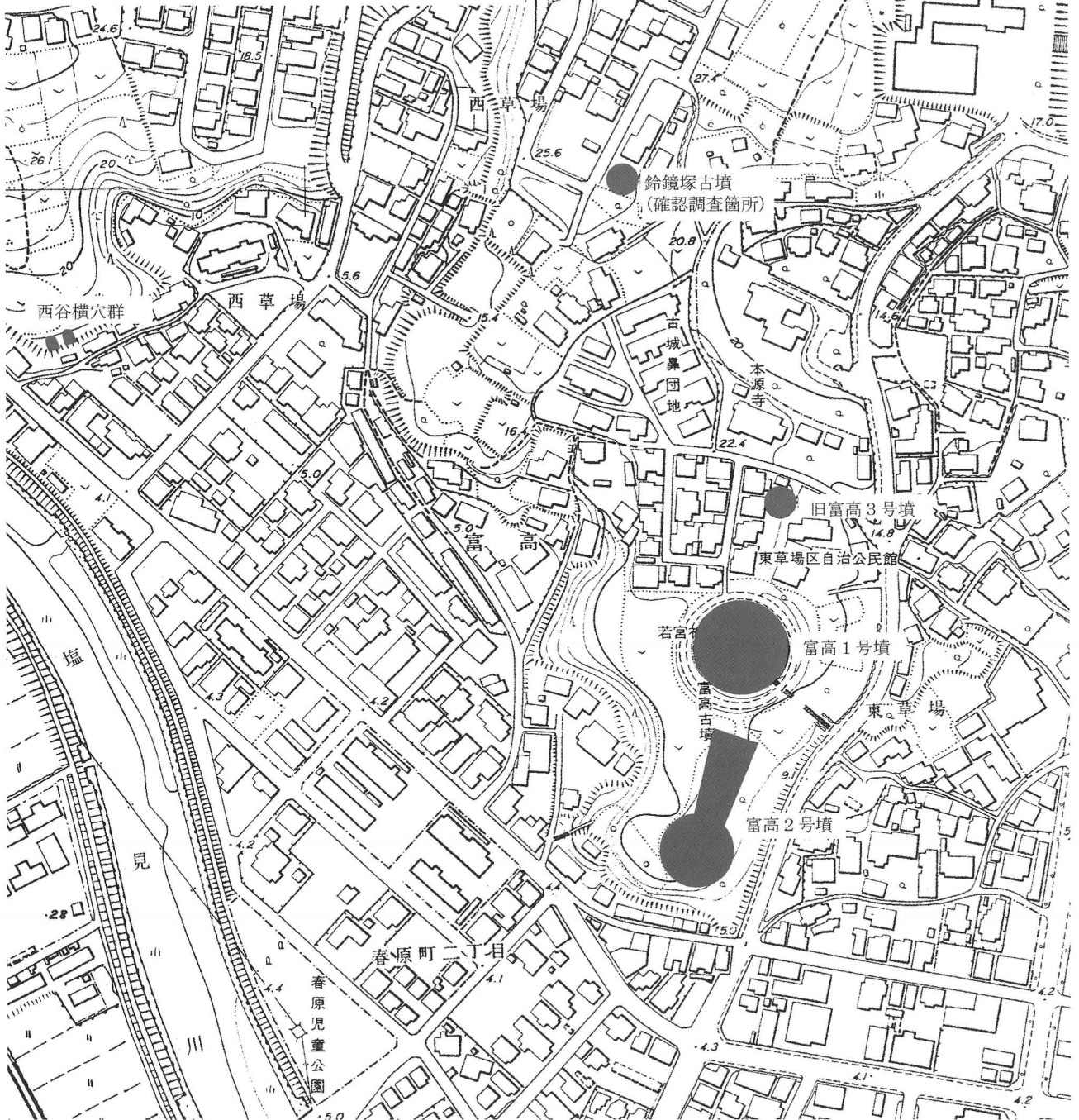


図15 富高古墳群分布図 (S=1/3,000)

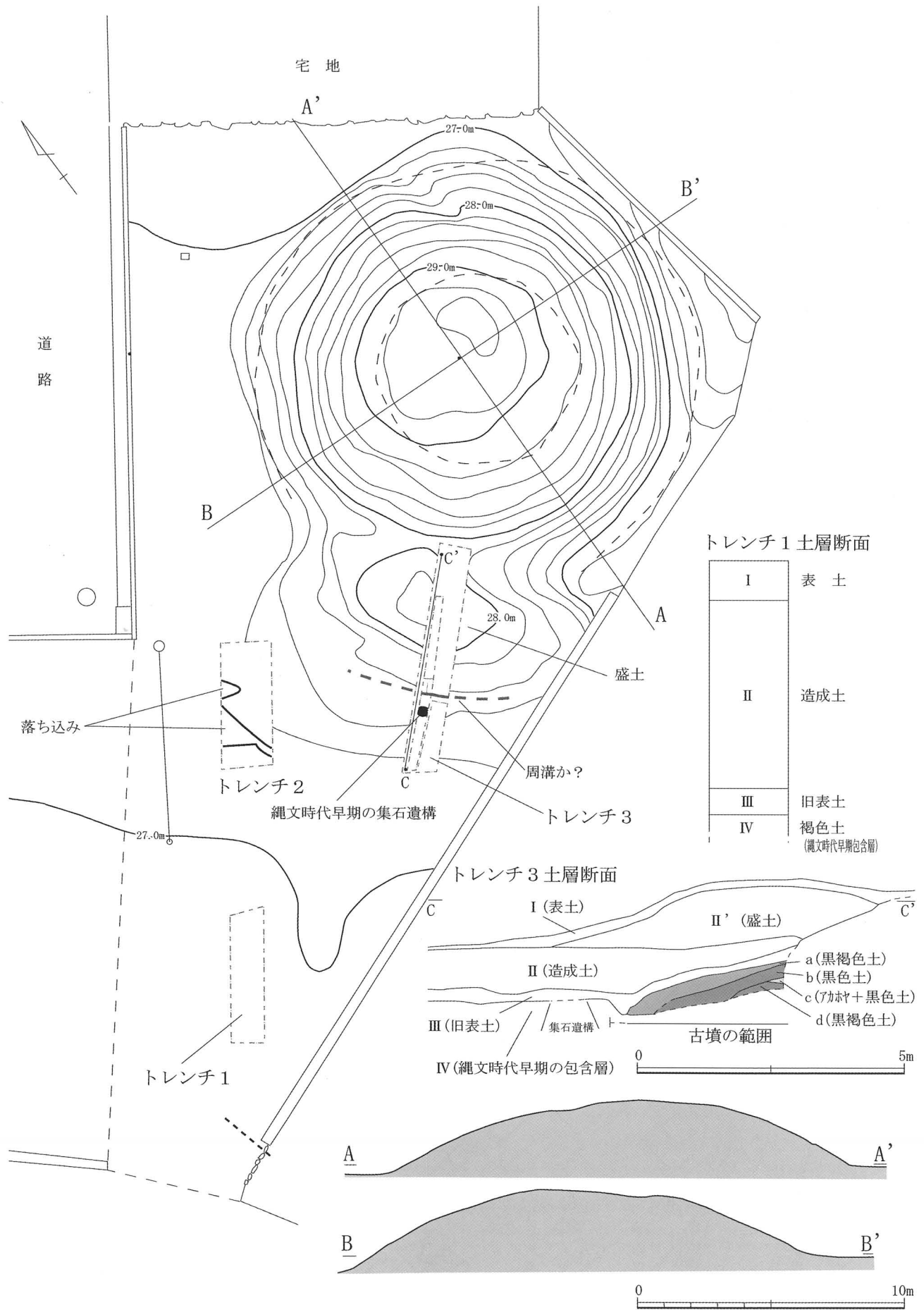
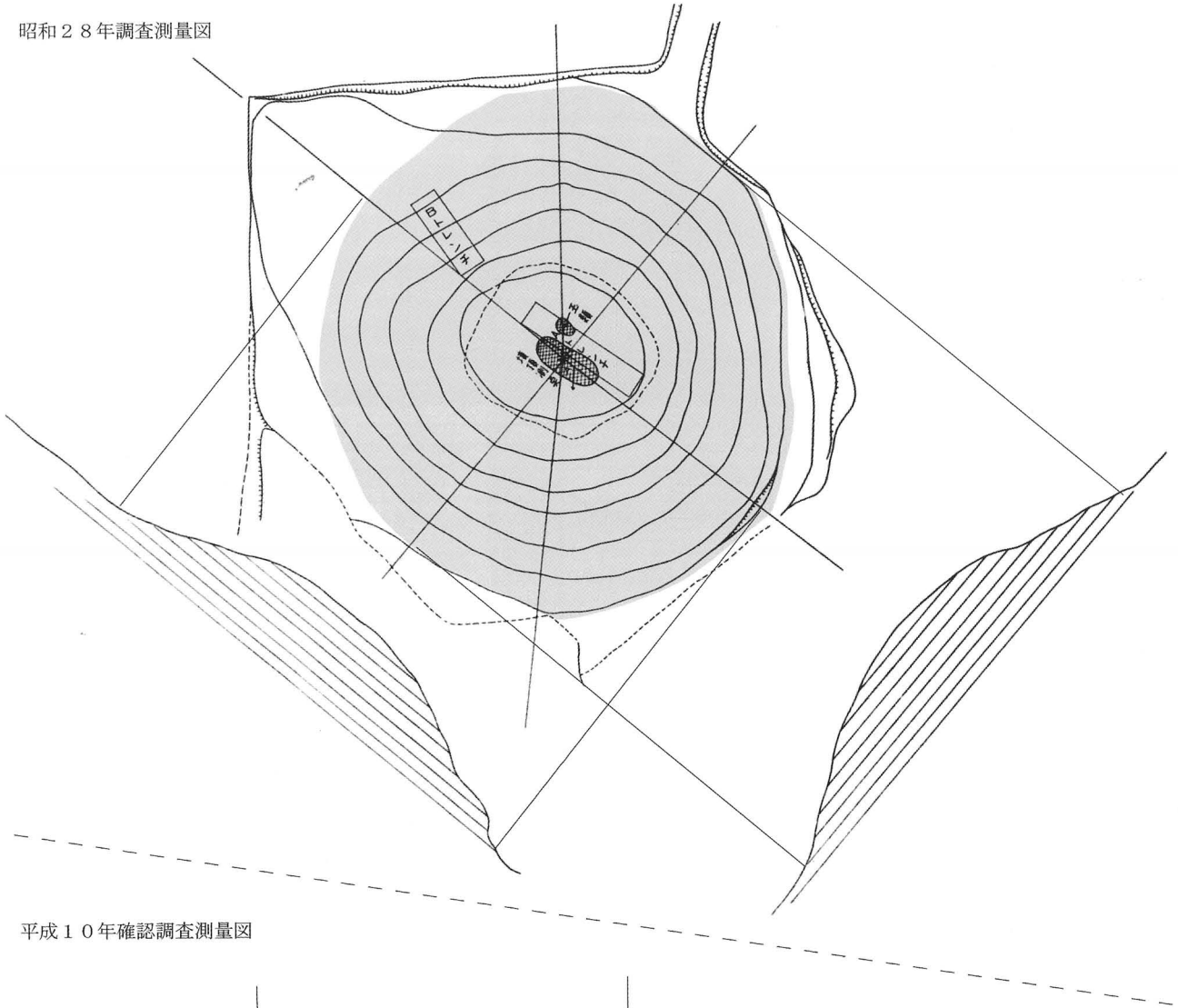


図16 鈴鏡塚古墳トレンチ配置図(S=1/200)及び土層断面(S=1/100)

昭和28年調査測量図



平成10年確認調査測量図

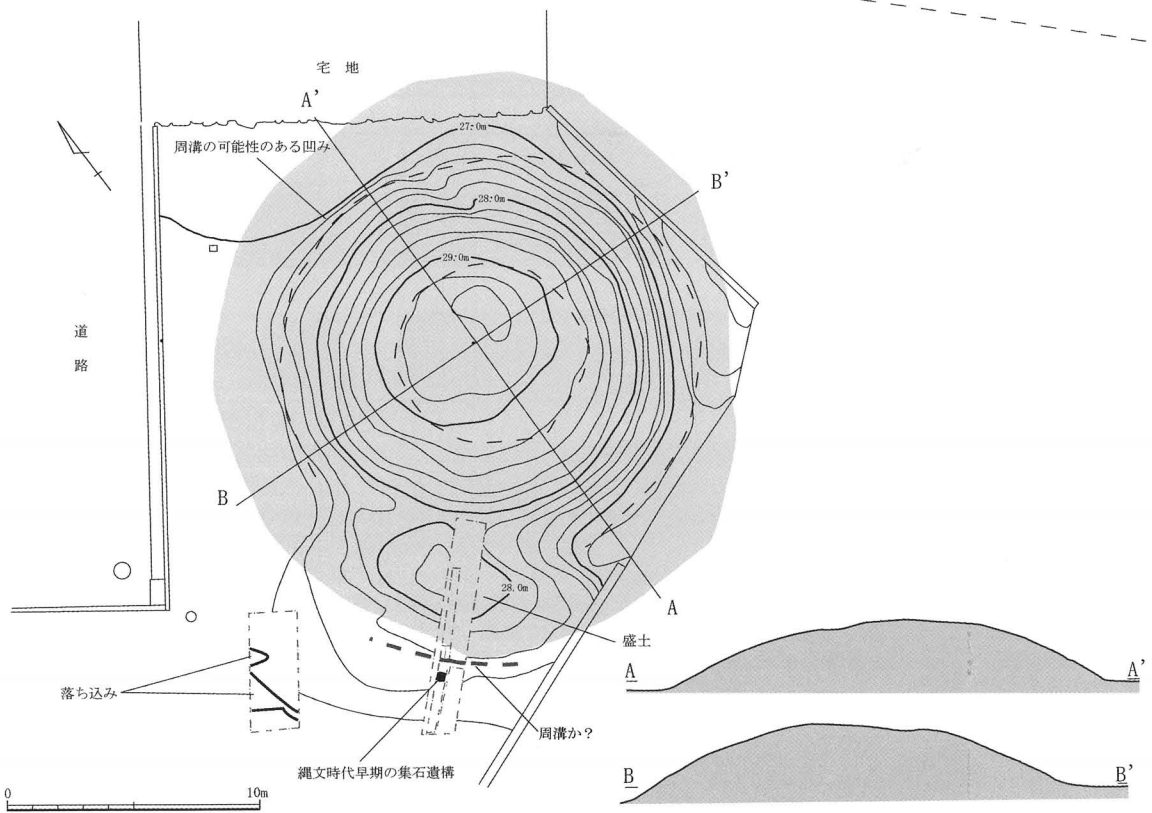


図17 鈴鏡塚古墳 新旧図面比較(S=1/300)

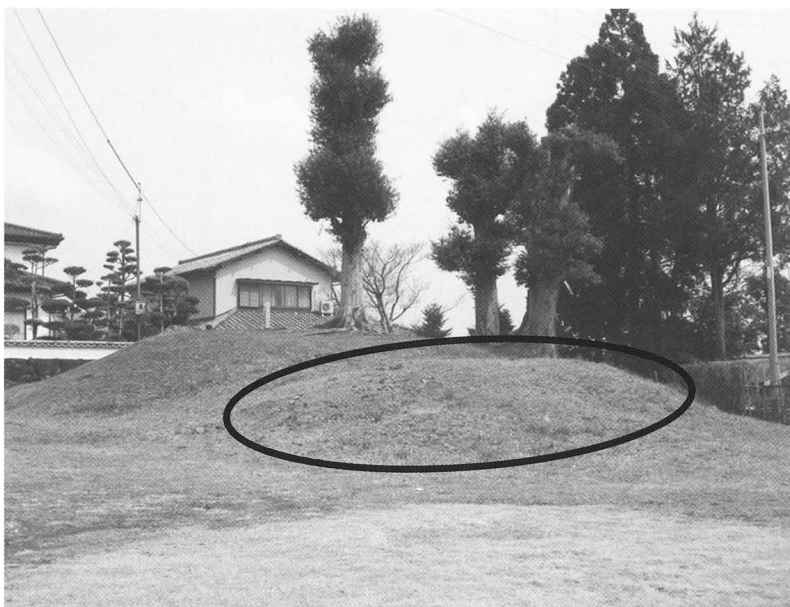


写真21 鈴鏡塚古墳
(南西より、丸の範囲が盛土)



写真22 トレンチ3
(南より、旧表土面)



写真23 トレンチ3
(南より、墳丘部分の掘り下げ。
手前には縄文時代の早期の集石
遺構を検出)



写真24 トレンチ3
(南より、墳丘部分の掘り下げ部分。黒色土等が堆積している。)



写真25 トレンチ1(東より)

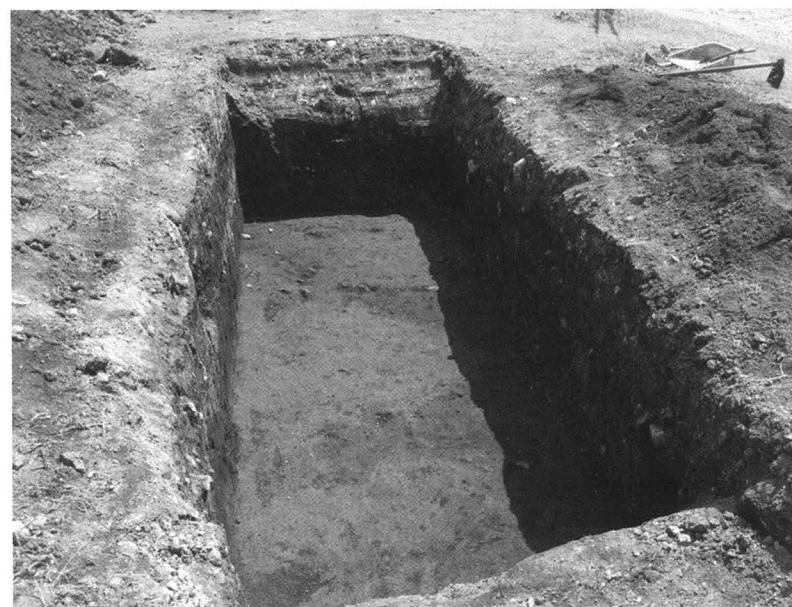


写真26 トレンチ2
(北東より、黒色部分は落ち込み)

7. 県指定史跡「妻町清水・西原古墳」24号墳

- 1 調査期間 【測 量】平成20年12月15日～平成21年1月13日
【探 査】平成21年2月4日
- 2 調査場所 西都市大字三宅字西原
- 3 対象面積 1,000m²
- 4 調査結果

県指定「妻町清水・西原古墳」のうち、西原地区の永野原一帯は通称「百塚原」と言われている。このうち24号墳は、周囲が削られ、現状では径15m程度の円墳であるが、国宝に指定されている金銅製馬具類(指定名称:日向国西都原古墳出土金銅馬具類、所有:(財)五島美術館)が出土したとの伝承が残されている。しかし、これまで古墳についての詳細なデータは皆無に等しく、測量図等もなかったことから、国庫補助を活用して測量調査を行い、合わせて地中レーダー探査を実施した。

【古墳の位置】

西都原古墳群が展開する西都原台地の西方、山路集落の位置する谷を挟んで約1kmの丘陵上に立地する。丘陵上に旧字境が存在し、県指定「妻町清水・西原古墳」と「三納古墳」に分かれているが、地元では「百塚原」と称され、小円墳が群集することが知られていた。24号墳は、舌状に張り出した先端部に位置している。

【測量の結果】

測量の成果は図19のとおりである。円墳の周囲は削られ、約2mの高さで崖状となっている。墳丘基底部の標高は84.2m～84.4mで、墳頂部の最高標高は甚7.4mである。現状の最大径は14.5m、最小径は13.5mである。現況で周溝等は認められない。

【地中探査の成果】

探査は、宮崎県立西都原考古博物館が所有する機材を使用し、以下の設定とした。

地中レーダーシステム:GSSI社製SIR-2000 使用アンテナ:270MHz

設定:探査レンジ200ns 記録:16bit 512サンプル/スキャン

探査範囲:32×36m 測線間隔:50cm 総走査距離:2,050m

解析:GPR-SLICE(Dean Goodman氏制作)

周辺は畑地であったが、永年の耕作放棄により雑草や竹が生い茂る状況であった。測量に先立って伐採作業を行ったが、土中に密生した竹根の影響は大きく、データには多くのノイズが含まれていたため、解析時にフィルターを用いて除去した。

解析の結果は、図20～図22に示すとおりである。注目されるのは、深さ約1.3m以下で現況の墳丘に沿わない反射を示していることである。墳丘径よりも約9m大きな円を描き、西側では直線的に外側に伸びている。この反射は、周溝の反射と見ることができ、24号墳は前方後円墳であった可能性が指摘される。

金銅馬具類が出土したとされる伝承に対して、現状の径15m程度の小円墳は不釣り合いとの印象があったが、本来は前方後円墳であったとすると、周辺に分布する古墳群の盟主的存在とみることができ、今後、試掘調査等による検証が必要である。



図18 調査古墳位置図

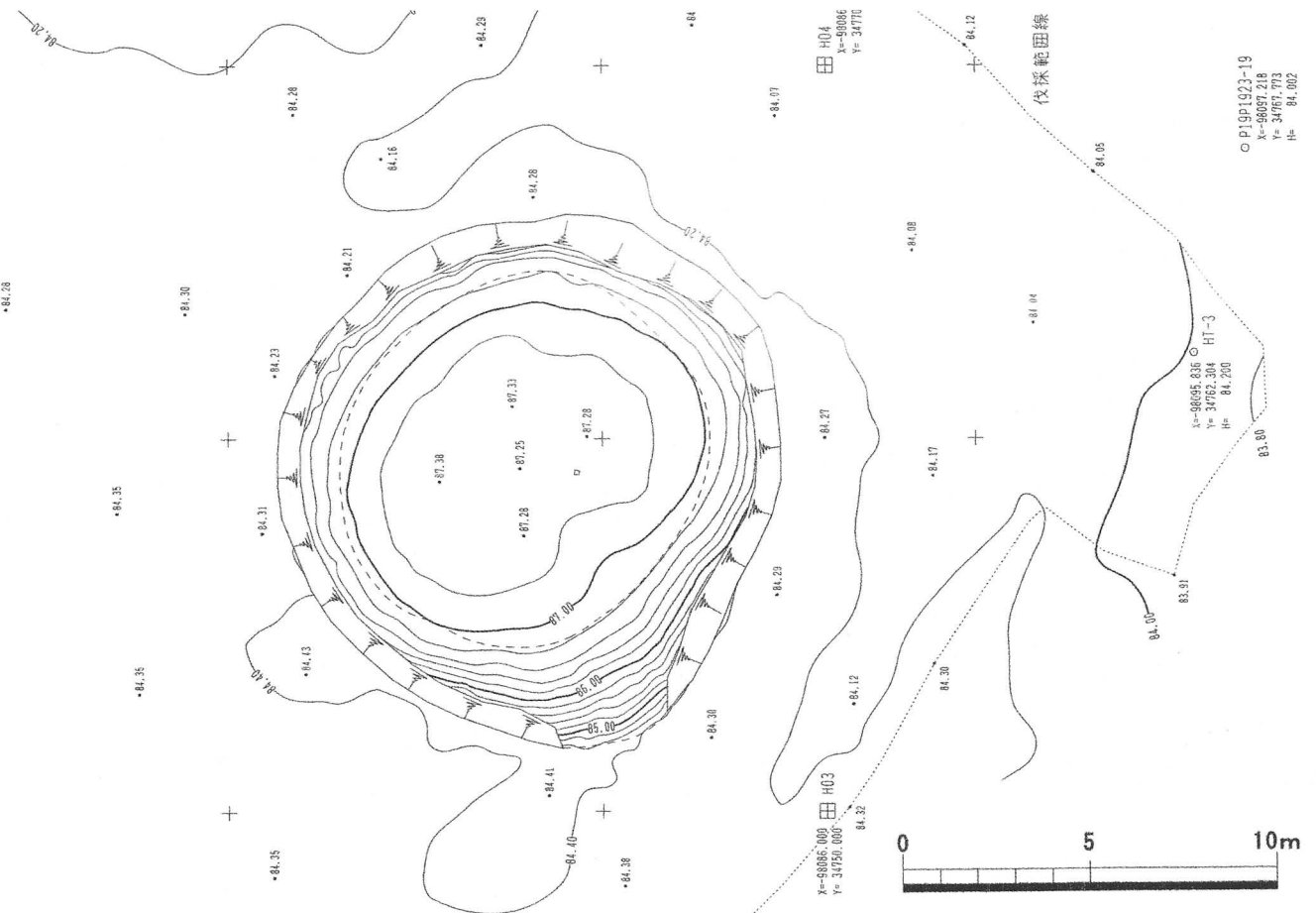
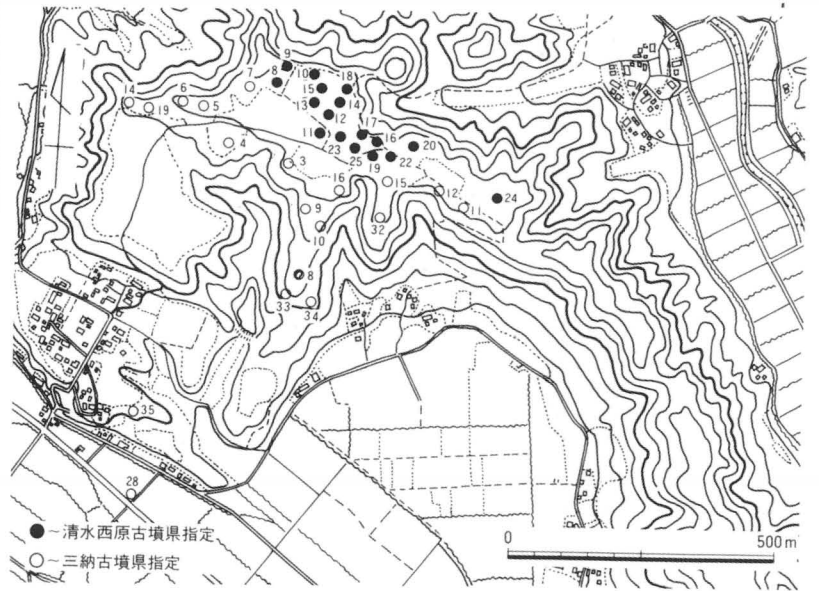


図19 墳丘測量図 (S=1/200)

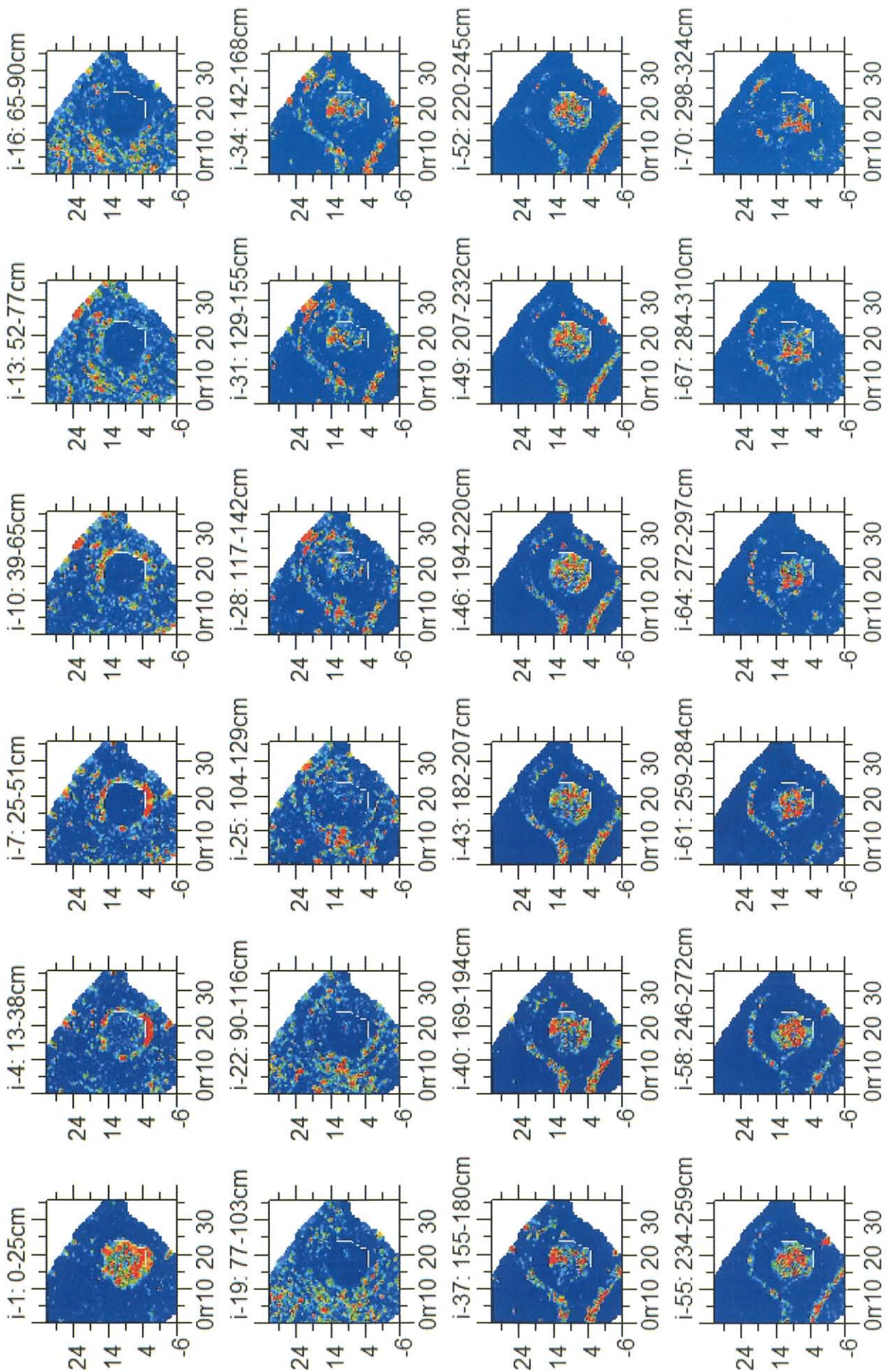


図20 地中レーダー探査 タイムスライス(1)

Hyakutsukabaru #24
GPR-Survey 270MHz i-33: 137-162cm

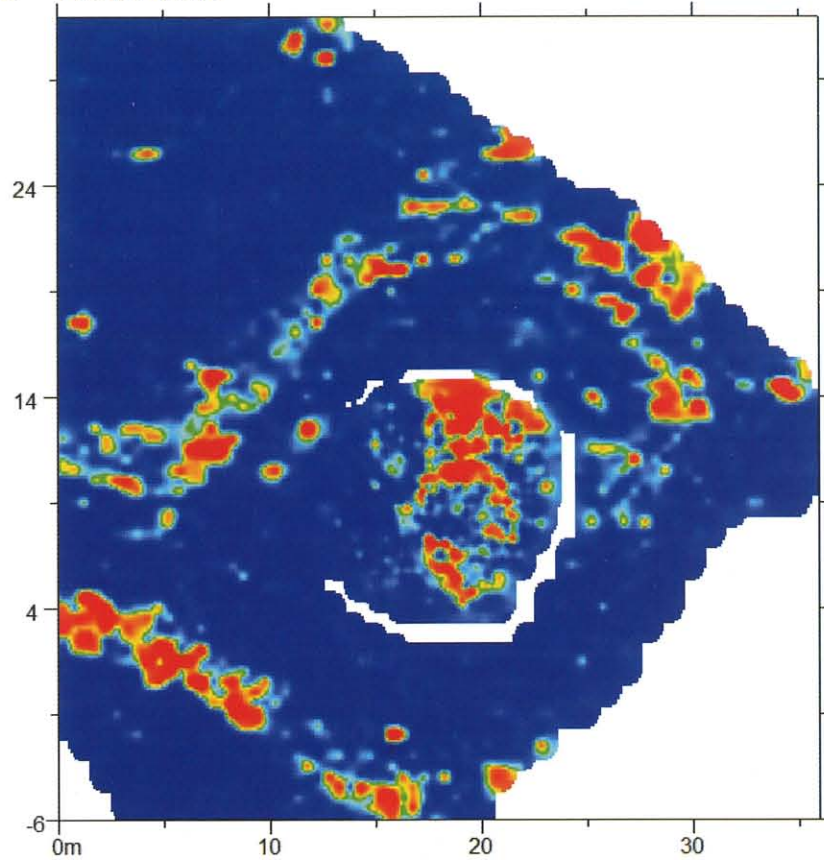


図21 地中レーダー探査 タイムスライス(2)

Hyakutsukabaru #24
GPR-Survey 270MHz i-60: 254-279cm

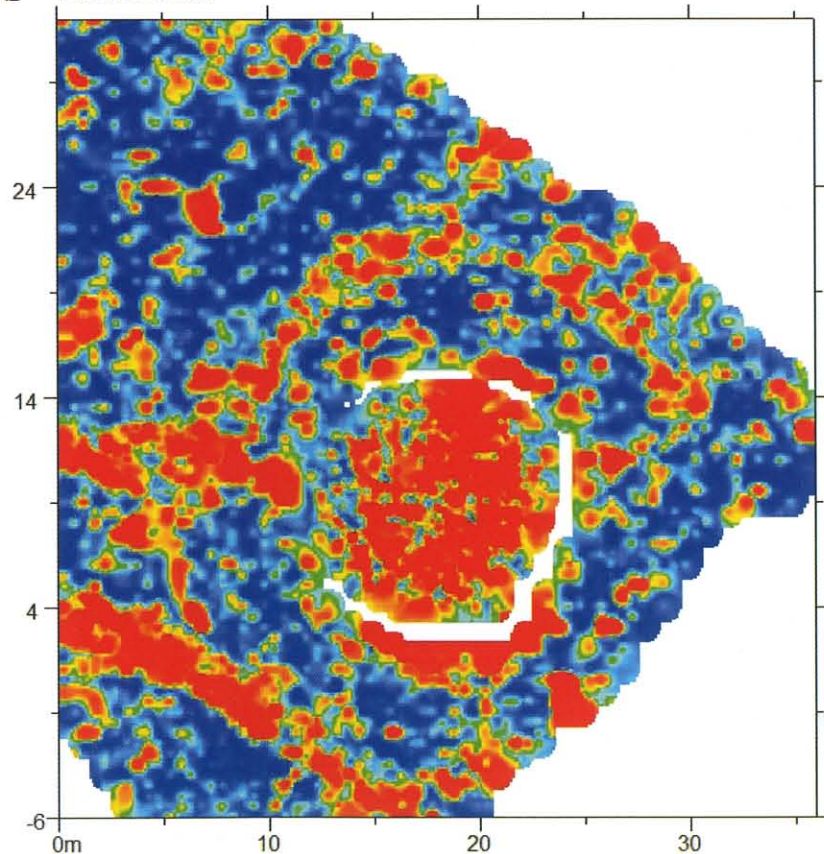


図22 地中レーダー探査 タイムスライス(3)オーバーレイ処理

報告書抄録

書名	平成20年度県内遺跡発掘調査概要報告書
所収遺跡名	宮崎市・江田山崎地区 日向市・鈴鏡塚古墳 西都市・妻町清水・西原古墳24号墳 野尻町・松牟礼遺跡 川南町・前ノ田村遺跡 高千穂町・丸山石棺群
調査原因	宮崎県内の開発事業に伴う試掘・確認調査、県指定古墳の範囲確認調査
発行機関	宮崎県教育委員会
発行年月日	2009年(平成21年)3月30日

平成20年度県内遺跡発掘調査概要報告書

2009年3月

編集:宮崎県教育庁文化財課

発行:宮崎県教育委員会

宮崎市橘通東1丁目9番10号

TEL 0985-26-7251

印刷:不二タイプ印刷